

高分子・樹脂

Weekly Intelligence Report

2026-04-21 | 20件 | 6カ国

troy-technical.jp

今週のキーワード

規制と材料革新

環境規制と高性能化が市場を再定義

20

件
記事数

6

カ国
対象国

17.47

%
バイオプラCAGR

46

億ドル
EMC市場規模

今週の全20記事 — 5軸評価で読むべき記事を選ぶ

各列の見方 — 技術新規性：ブレイクスルー度合い 実用化距離：製品として使える近さ 市場インパクト：業界全体への影響規模
データ信頼性：定量データ・査読の有無 日本関連度：日本の企業・サプライチェーンとの直接的関連性

#	記事タイトル	種別	技術 新規性	実用化 距離	市場 インパクト	データ 信頼性	日本 関連度	一行サマリ
#01	PHBH市場成長予測	市場概観	●●○○ ○	●●●● ○	●●●● ○	●●○○ ○	●●○○ ○	PHBHバイオプラ市場は環境規制と持続可能性需要で2036年まで二桁成長、北米が牽引。
#02	バイオPLA市場拡大	市場概観	●●○○ ○	●●●● ○	●●●● ○	●●○○ ○	●●○○ ○	バイオPLA市場は持続可能な包装需要と規制強化で2035年までに46.7億ドル規模へ拡大。
#03	生分解性PKG市場	市場概観	●●○○ ○	●●●● ○	●●●● ○	●●○○ ○	●●●● ○	生分解性パッケージ市場はバイオポリマーとコンポスト可能プラの技術革新で成長、アジア太平洋が牽引。
#04	再生PE軟包装市場	市場概観	●●○○ ○	●●○○ ○	●●●● ○	●●○○ ○	●●●● ○	先端化学リサイクル技術による再生PEが持続可能な軟包装市場を牽引、食品・飲料分野で需要増。
#05	PEEK粉末市場展望	市場概観	●●○○ ○	●●●● ○	●●○○ ○	●●○○ ○	●●○○ ○	PEEK粗粉末市場は高温産業用途と3Dプリンティングで成長、高コストが課題。
#06	AWP軽量化材料	技術応用	●●○○ ○	●●○○ ○	●●○○ ○	●●●● ○	●●○○ ○	高所作業車でCFRP/GFRPの軽量化応用が進展、オルガノシートが有望だがコストと製造が課題。
#07	EV電池R提携	企業戦略	●●○○ ○	●●●● ○	●●●● ○	●●○○ ○	●●●● ○	BASFとTSRがEVバッテリーリサイクルで提携、欧州のバッテリー材料自給自足に貢献。
#08	エマルション市場	市場概観	●●○○ ○	●●●● ○	●●○○ ○	●●○○ ○	●●○○ ○	合成・バイオエマルションポリマー市場は環境規制と高性能化で成長、塗料・接着剤分野で水性化が進む。
#09	イオン交換樹脂値上	市場危機	●○○○ ○	●●●● ●	●●○○ ○	●○○○ ○	●●●● ●	ランクセスがイオン交換樹脂に原材料費高騰でサーチャージ導入、半導体産業等に影響。
#10	バイオプラ市場急成長	市場概観	●●○○ ○	●●●● ○	●●●● ●	●●○○ ○	●●●● ●	バイオプラスチック市場は環境規制とアジアの投資で2035年に1191億ドル規模へ急成長、日本も牽引。
#11	3Dプリンティング動向	解説記事	●●○○ ○	●●○○ ○	●●○○ ○	●○○○ ○	●●●● ●	日本3Dプリンティング産業技術協会がRapid+TCT 2026報告会開催、高性能ポリマー材料など最新トレンドを紹介。
#12	米国バイオ法制化	企業戦略	●●○○ ○	●●●● ○	●●●● ○	●●○○ ○	●●●● ○	米国でバイオマニュファクチャリング法制化、税額控除でバイオポリマー商業化が加速。
#13	英エンジニアリング	市場概観	●●○○ ○	●●●● ○	●●●● ○	●●○○ ○	●●●● ○	EV電動化とPFAS規制がPEEK/ナイロンなど高性能エンジニアリングプラスチックの新需要を創出。
#14	eSUN 3D材料展示	製品紹介	●●○○ ○	●●●● ○	●●○○ ○	●○○○ ○	●●○○ ○	eSUNがRapid+TCT 2026でTPU/PEBA、反りゼロABS+、高速PLA-HFなど革新的3Dプリンティング材料を展示。
#15	BASF NPG値上	市場危機	●○○○ ○	●●●● ●	●●○○ ○	●○○○ ○	●○○○ ○	BASFが米国・カナダでNPG製品の価格引き上げを発表、原材料費高騰が原因。
#16	EU循環経済法案	企業戦略	●●○○ ○	●●○○ ○	●●●● ●	●●○○ ○	●●●● ○	EUが2026年循環経済法案で包装・リサイクル制度を改革、再生材義務化など厳格化へ。

#	記事タイトル	種別	技術新規性	実用化距離	市場インパクト	データ信頼性	日本関連度	一行サマリ
#17	東レ知財功労賞	企業戦略	●○○○○ ○	●●●●● ●	●○○○○ ○	●●○○○ ○	●●●●● ●	東レが独自技術の「見える化」で知的財産功労賞経済産業大臣表彰を受賞。
#18	東レRC新評価技術	技術新規性	●●●●● ○	●●○○○ ○	●●●○○ ○	●●●●● ○	●●●●● ●	東レリサーチセンターがPEG水中ナノ構造をDSCで評価する新技術開発、医薬品キャリア設計を効率化。
#19	半導体EMC市場	市場概観	●●○○○ ○	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●○○ ○	●●●●● ○	半導体PKG用EMC市場は半導体需要増と先進PKG技術で成長、高性能化とコストが課題。
#20	PTFEフリーPEEK	新製品	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	●●○○○ ○	●●●●● ○	エポニックがPFAS規制対応でPTFEフリーPEEKスライドベアリング材料を開発、環境配慮と高性能を両立。

●●●●● 高 ●●●○○ 中高 ●●○○○ 中 ●○○○○ 低 | 背景黄色=注目記事

今週、判断に影響しうる3つの問い

① バイオプラスチックの急成長は、貴社の製品ポートフォリオにどのような影響を与えますか？

バイオプラスチック市場は2035年に1191億ドル規模へ急成長し、日本もその牽引役です（#10）。環境規制強化と企業の持続可能性コミットメントが背景にあります。貴社の製品は、この巨大な市場シフトに対応できていますか？既存製品のバイオ化、新規バイオ製品の開発、あるいはサプライチェーンへの組み込みは進んでいますか？

② PFAS規制強化は、貴社の材料調達戦略と製品開発にどのような変更を迫りますか？

EUのPFAS規制強化フレームワークは、特定のPTFE用途におけるPEEKなどの新規材料仕様の需要を創出しています（#13, #20）。エボニックはPTFEフリーPEEKを開発し、この動きに対応しています。貴社はPFASフリー材料への移行計画を策定していますか？代替材料の評価・導入は進んでいますか？

③ 半導体パッケージング材料の高性能化要求に対し、貴社の技術は十分に対応できていますか？

半導体パッケージング用EMC市場は2033年に46億ドル規模へ成長し、車載、AI、5G向け需要が牽引しています（#19）。フリップチップや3D ICスタッキングなどの先進パッケージング技術は、EMCにさらなる熱伝導性、低応力性、低誘電性を要求します。貴社の材料はこれらの要求を満たし、競争力を維持できていますか？

日本企業にとっての「機会 vs 脅威」

日本企業にとっての「機会 vs 脅威」マトリクス



項目	象限	↑ 機会	↓ 脅威
● バイオプラ	機会大	巨大市場への参入	競争激化、技術遅れ
● EU規制	注意	再生材ビジネス	規制未対応リスク
● PFAS代替	注意	新規材料開発	規制対応遅れ
● 半導体EMC	機会大	高性能材供給	原料コスト増
● EV電池R	注意	リサイクル参入	資源確保競争
● PEG評価	機会大	開発効率向上	—
● イオン樹脂	脅威大	代替材検討	コスト増大

● 米国バイオ	注意	米国市場参入	競争力低下
---------	----	--------	-------

深掘り ① — バイオプラスチック市場の爆発的成長と日本の役割

#10 | 2026/04/17 | NEWSCAST (株式会社レポートオーシャン経由) | 技術新規性●●○○○ 実用化距離●●●●○
市場インパクト●●●●● データ信頼性●●●○○ 日本関連度●●●●●

バイオプラスチック市場は2025年の238.1億ドルから2035年には1191.2億ドルへと、CAGR 17.47%で急成長すると予測されています。この成長は、プラスチック廃棄物削減を目指す環境規制の強化と、企業の持続可能性へのコミットメントの高まりによって推進されています。特にアジア太平洋地域、中でも中国、日本、インドがバイオベース材料のイノベーションとインフラ投資を牽引しており、日本は2050年カーボンニュートラル目標達成のため、この分野で重要な中心地としての地位を確立しつつあります。

この市場拡大は、包装、自動車、エレクトロニクス、繊維など多岐にわたる産業に影響を与えます。高機能化、コスト競争力の確保、そして最終的な廃棄・リサイクルシステムの構築が今後の普及の鍵となります。政府の政策支援と企業の技術革新、消費者の連携によるエコシステムの確立が、持続可能な社会実現への貢献を加速させるでしょう。

▶ シニアテクニカルアナリスト

【数値の妥当性】CAGR 17.47%という成長率は非常に高く、環境規制と消費者の意識変化を背景に、バイオプラスチックへの期待値が反映されたものと評価できます。ただし、現状の生産能力やコスト、性能面での課題を考慮すると、この成長を維持するには相当な技術革新とインフラ投資が必要です。【未解決課題】主要な課題は、従来の石油由来プラスチックとのコスト競争力、耐熱性やバリア性などの機能性向上、そして生分解性・堆肥化を前提とした適切な廃棄・処理インフラの整備です。特に、生分解性プラスチックの「どこで、どのように分解されるか」の標準化と啓発が重要です。

【日本企業への影響】 【機会】日本の材料メーカー、特に高分子・樹脂メーカーにとっては、新たな高付加価値製品の開発・供給で世界市場をリードする絶好の機会です。自動車、家電、包装など川下産業との連携強化により、新たなサプライチェーンを構築できます。【脅威】海外大手企業や新興企業が先行する中、技術開発や生産能力増強への投資が遅れると、市場シェアを奪われる可能性があります。また、海外の環境規制動向への迅速な対応が求められます。【次のアクション】R&D部門は、既存製品のバイオ化や新規バイオポリマーの開発を加速し、生産部門はスケールアップ技術の確立とコストダウンを推進すべきです。経営企画部門は、海外の環境規制と市場動向を継続的にモニタリングし、事業戦略に反映させる必要があります。

深掘り ② — 東レRC、PEG水中ナノ構造評価の新技术で医薬品開発を加速

#18 | 2026/04/17 | PR TIMES (東レリサーチセンター提供) | 技術新規性●●●●○ 実用化距離●●○○○
市場インパクト●●●○○ データ信頼性●●●●○ 日本関連度●●●●●

東レリサーチセンター (TRC) は、ポリエチレングリコール (PEG) が水中で形成するナノサイズ構造を、示差走査熱量測定 (DSC) を用いた温度測定のみで評価する画期的な新技术を開発しました。この技術は、融解、結晶化、ガラス転移などの相転移における熱流変化を定量的に解析することで、従来困難だった水中高次構造の簡便かつ高精度な評価を可能にします。

PEGは高い親水性と生体適合性から医薬品 (特にドラッグデリバリーシステム: DDS) や化粧品に広く利用されており、免疫回避や溶解性・安定性向上に貢献しています。この新技术は、材料評価を大幅に加速させ、医薬品キャリア設計の効率化、および様々なポリマー関連分野での品質管理向上に寄与すると期待されています。

▶ シニアテクニカルアナリスト

【数値の妥当性】DSCによる熱流変化の定量解析は、高分子の相転移挙動を評価する確立された手法であり、その応用範囲を水中ナノ構造評価に広げた点は非常に妥当かつ革新的です。具体的な数値データは記事にないものの、その原理から信頼性は高いと考えられます。【未解決課題】DSCはバルクの平均的な情報を与えるため、個々のナノ構造の形態や分布を直接可視化する能力には限界があります。より詳細な構造解析には、小角X線散乱（SAXS）や動的光散乱（DLS）などとの組み合わせが有効でしょう。また、PEG以外の水溶性高分子への適用可能性も今後の課題です。【日本企業への影響】【機会】日本の医薬品メーカーや化粧品メーカー、高分子材料メーカーは、この技術を活用することで、DDSキャリアや機能性化粧品、食品添加物などの開発サイクルを大幅に短縮し、品質管理を高度化できます。特に、DDS分野での国際競争力強化に貢献するでしょう。【脅威】この技術が標準化されると、従来の評価手法に依存している企業は開発スピードで後れを取る可能性があります。早期にこの技術を導入し、自社のR&Dプロセスに組み込むことが重要です。【次のアクション】R&D部門は、TRCとの連携を検討し、この新技術の自社製品開発への適用可能性を評価すべきです。特に、DDSや機能性化粧品材料を扱う部門は、具体的な評価プロセスの導入を計画し、競合優位性を確立するよう動くべきです。

深掘り ③ — PFAS規制対応：エボニックがPTFEフリーPEEK材料を開発

#20 | 2026/04/13 | Plastics News (Weekly Pelletに転載) | 技術新規性●●●●○ 実用化距離●●●●○
市場インパクト●●●●○ データ信頼性●●○○○ 日本関連度●●●●○

ドイツの特殊化学品大手エボニックは、スライドベアリング用途向けに新しいPTFE（ポリテトラフルオロエチレン）フリーのPEEK（ポリエーテルエーテルケトン）材料を開発しました。この開発は、PFAS（有機フッ素化合物）規制の台頭によりフッ素ポリマー代替品への需要が高まる中、規制圧力に対応するものです。新材料は、PEEKの優れた機械的強度、耐薬品性、熱安定性といった望ましい特性を維持しつつ、従来のフッ素ポリマーに関連する環境懸念を解消する高性能ポリマーソリューションを提供します。

PTFEフリーPEEKは、自動車、産業機械、航空宇宙など、摩擦や摩耗が問題となる多様なアプリケーションで不可欠なスライドベアリング部品に適用されます。この革新は、環境への配慮と製品性能の両立を可能にし、PFAS規制がさらに厳格化する中で、他のフッ素ポリマー代替材料の開発も加速させるでしょう。材料の分子設計、複合化技術、添加剤の最適化など、高分子科学のさらなる進展が求められます。

▶ シニアテクニカルアナリスト

【数値の妥当性】具体的な性能数値は提示されていませんが、PEEKの特性を維持しつつPTFEフリーを実現したという点で、技術的な進歩は大きいと考えられます。特にスライドベアリング用途では、低摩擦性や耐摩耗性が重要であり、これらの性能がPTFE同等レベルで達成されているかが鍵となります。

【未解決課題】PTFEの持つ極めて低い摩擦係数や広範な耐薬品性を、非フッ素系ポリマーで完全に代替することは非常に困難です。エボニックの材料がどの程度の性能を発揮するのか、特に極限環境下での長期信頼性やコストパフォーマンスが実用化に向けた課題となるでしょう。また、PTFEが使用されてきた全ての用途に適用できるわけではない点も考慮が必要です。【日本企業への影響】【機会】日本の材料メーカーは、PFAS規制を新たなビジネスチャンスと捉え、PEEK以外の高性能非フッ素系ポリマーや複合材料の開発を加速すべきです。自動車、産業機械、半導体製造装置など、PTFEが多用されてきた分野の部品メーカーは、この代替材料を積極的に評価・導入することで、環境対応と製品競争力を両立できます。【脅威】PFAS規制はグローバルな動きであり、代替材料の開発や導入が遅れると、市場からの撤退や競争力低下に直結します。特にフッ素ポリマーに強みを持つ企業は、ポートフォリオの見直しと非フッ素系材料へのシフトを急ぐ必要があります。【次のアクション】R&D部門は、PTFE代替材料としてのPEEKの性能評価を急ぎ、自社製品への適用可能性を検討すべきです。また、調達部門はPFAS規制の最新動向を把握し、サプライヤーとの連携を通じて代替材料の調達戦略を策定する必要があります。

その他の注目記事

英国エンジニアリングプラスチックメーカーの展望：EVとPFAS規制が新需要を創出 (papaverAI)
技術新規性●●●○○ 実用化距離●●●●○ 市場インパクト●●●●○

EV電動化とPFAS規制がPEEKやナイロンなど高性能エンジニアリングプラスチックの需要を大幅に増加させ、材料メーカーに新たな機会をもたらす。

EU循環経済法案2026：包装とリサイクル制度を根本から変革 (packaging-gateway.com)
技術新規性●●○○○ 実用化距離●●●○○ 市場インパクト●●●●●

EUの新たな循環経済法案は、包装材のリサイクル可能性、再生材含有量、設計基準を厳格化し、高分子・樹脂産業に根本的な変革を迫る。

米国バイオマニュファクチャリング法制とバイオポリマーの商業化加速 (Mushmycel)
技術新規性●●●○○ 実用化距離●●●●○ 市場インパクト●●●●○

米国でバイオマニュファクチャリング投資への税額控除が導入され、バイオベース生分解性ポリマーの商業化が加速、新たなサプライチェーン構築へ。

ランクセス、イオン交換樹脂に原材料費高騰対応のサーチャージ導入 (プラタイムス)
技術新規性 ●○○○○ 実用化距離 ●●●●● 市場インパクト ●●●○○

ランクセスがイオン交換樹脂に6-8%のサーチャージを導入。半導体製造など高純度水を必要とする日本の産業に直接的なコスト増影響。

今週のアクション提案

記事評価マトリクスと機会/脅威分析を踏まえたアクション提案です。

■ 即時（今週中）

- 【調達】ランクセスによるイオン交換樹脂の価格改定（#09）が自社の調達コストに与える影響を緊急で評価し、代替サプライヤーや材料の短期的な検討を開始。
- 【R&D;/経営企画】PFAS規制（#13, #20）の最新動向を再確認し、自社製品におけるPFAS使用状況と代替材料への移行計画の現状をレビューする。

■ 短期（1ヶ月）

- 【経営企画/R&D;】バイオプラスチック市場の急成長（#10）と米国バイオマニュファクチャリング法制（#12）を受け、自社のバイオポリマー関連R&D;投資と事業戦略を再評価する。
- 【半導体PKG/R&D;】東レRCのPEG水中ナノ構造評価技術（#18）について情報収集し、自社の材料評価プロセスへの応用可能性を検討する。
- 【経営企画/調達】EU循環経済法案（#16）が日本のサプライチェーンに与える影響を詳細に分析し、再生材含有義務化への対応策を検討するワーキンググループを立ち上げる。

■ 中長期（四半期～）

- 【R&D;/半導体PKG】半導体パッケージング用EMC市場の高性能化要求（#19）に対応するため、熱伝導性、低応力性、低誘電性EMCの開発ロードマップを見直し、ナノフィラーや新ポリマー骨格の研究を強化する。
- 【EV設計/R&D;】EVバッテリーリサイクル（#07）の技術動向を継続的にモニタリングし、将来的なりサイクル材の品質と供給安定性を考慮した材料設計指針を策定する。

高分子・樹脂 採用記事全文集

出力日: 2026-04-21

採用記事数: 20 件

収録記事一覧

1. 01. PHBHバイオプラスチック市場の成長予測：持続可能性へのシフトが加速
2. 02. バイオPLA市場、2035年までに46.7億ドル規模へ：持続可能な包装需要が牽引
3. 03. 生分解性パッケージング市場、7.20%のCAGRで成長：バイオポリマーとコンポスト可能プラスチックが牽引
4. 04. 持続可能な軟包装市場における再生ポリエチレン：先端リサイクル技術が牽引
5. 05. PEEK粗粉末市場の展望：高温産業用途と3Dプリンティングが成長を牽引
6. 06. 高所作業車設計における軽量材料の応用：CFRPとGFRPが主導
7. 07. BASFとTSR Group、欧州でEVバッテリーリサイクルの戦略的提携を発表
8. 08. 合成・バイオエマルジョンポリマー市場、2036年までに66.36億ドル規模へ：環境対応と高性能化が推進
9. 09. ランクセス、イオン交換樹脂に原材料費高騰対応のサーチャージ導入
10. 10. バイオプラスチック市場、2035年に1191億ドル規模へ：環境規制とアジアの投資が成長を加速
11. 11. 3Dプリンティング海外動向報告会2026：米国Rapid+TCT展示会の最新トレンド
12. 12. 米国バイオマニュファクチャリング法制とバイオポリマーの商業化加速
13. 13. 英国エンジニアリングプラスチックメーカーの展望：EVとPFAS規制が新需要を創出
14. 14. eSUN、Rapid+TCT 2026で3Dプリンティング材料の革新技术を展示
15. 15. BASF、米国・カナダでネオペンチルグリコール製品の価格引き上げを発表
16. 16. EU循環経済法案2026：包装とリサイクル制度を根本から変革
17. 17. 東レ、知的財産功労賞で経済産業大臣表彰を受賞：独自技術の可視化を評価
18. 18. 東レリサーチセンター、PEG水中ナノ構造を温度測定で評価する新技術開発
19. 19. 半導体パッケージング用エポキシモールドコンパウンド市場：需要急増と技術進歩が牽引
20. 20. エボニック、PTFEフリーPEEKスライドベアリング材料を開発：PFAS規制への対応

PHBHバイオプラスチック市場の成長予測：持続可能性へのシフトが加速

公開日 2026年04月17日 Fact.MR アメリカ



概要

PHBHバイオプラスチック市場は、2026年から2036年にかけて持続可能な素材への需要増加により大幅な成長が見込まれています。特に欧米主要国では、環境規制の強化が市場拡大の強力な推進力となっており、各国で二桁成長が予測されています。主要企業がバイオベースポリマーの開発と商業化を加速しており、北米は技術革新と商業化の中心地となっています。この市場の成長は、持続可能なパッケージングへの世界的なコミットメントと、ポリマー材料科学の進歩によって推進されています。

背景：持続可能な材料への高まる需要

近年、世界的に環境意識が高まり、プラスチック廃棄物問題への対策が喫緊の課題となっています。これに伴い、従来の石油由来プラスチックに代わる持続可能な材料への需要が急速に増加しており、特に生分解性ポリマーであるPHBH（ポリ-3-ヒドロキシ酪酸-共-3-ヒドロキシヘキサ酸）が注目を集めています。PHBHは、微生物によって分解される特性を持つため、環境負荷低減に貢献する次世代の材料として期待されています。

市場の主要動向と成長要因

Fact.MRの報告によると、PHBHバイオプラスチック市場は2026年から2036年の期間にわたり顕著な成長を遂げると予測されています。この成長の主な原動力は、持続可能なパッケージングソリューションに対する世界的な需要の高まりと、各国政府による積極的な環境規制です。特に欧州連合の「循環経済行動計画」や、各国における生分解性パッケージングの採用を促進する取り組みが市場を強く後押ししています。

- **地域別の成長牽引:**
 - イギリス: 15.3%の年間複合成長率 (CAGR)
 - ドイツ: 14.9%のCAGR
 - フランス: 13.8%のCAGR
 - アメリカ: 14.1%のCAGR
- **主要企業の取り組み:** Arkema S.A.、BASF SE、TotalEnergies Corbionといった大手化学企業は、増大する需要に応えるため、バイオベースポリマーの開発と商業化能力を積極的に強化しています。
- **北米の役割:** 北米はバイオベースポリマーの革新と商業化における重要なハブとして位置づけられており、産業バイオテクノロジーへの戦略的投資が活発に行われています。

影響と今後の展望

PHBHバイオプラスチック市場の拡大は、幅広い産業に大きな影響を与えると考えられます。特に食品・飲料、化粧品、医療といった分野では、持続可能なパッケージング素材への転換が加速し、製品の環境パフォーマンス向上に貢献するでしょう。また、PHBHのような高性能生分解性ポリマーは、従来のプラスチックでは困難だった用途への展開も期待されており、材料科学のさらなる進歩を促します。しかし、高分子材料としての性能とコストのバランス、および適切な廃棄・処理インフラの整備が今後の普及の鍵となるでしょう。この市場の成長は、環境と経済の両面において持続可能な未来を築くための重要な一步となります。

元記事: #

収集日: 2026年04月18日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

バイオPLA市場、2035年までに46.7億ドル規模へ：持続可能な包装需要が牽引

公開日 2026年04月10日 Spherical Insights & Consulting アメリカ



概要

世界のバイオポリ乳酸（PLA）市場は、2024年の21.8億ドルから2035年には46.7億ドルへと大幅な拡大が予測されており、予測期間中のCAGRは7.17%に達します。この成長は、持続可能な包装への需要増大、使い捨てプラスチックに対する厳格な政府規制、およびPLA加工技術の継続的な進歩によって主に推進されています。北米は、高度な生産能力と確立された産業用コンポスト・リサイクルインフラにより、市場成長をリードする地域となると予想されています。包装分野が最大の用途シェアを占め、TotalEnergies CorbionとUseonのような企業間の提携がPLAの応用範囲を広げることに貢献しています。

背景：環境負荷低減とバイオプラスチックの重要性

現代社会におけるプラスチックの過剰使用は、環境汚染や資源枯渇といった深刻な問題を引き起こしています。これに対し、従来の石油由来プラスチックの代替として、植物由来の再生可能資源から作られるバイオプラスチック、特にポリ乳酸（PLA）への期待が高まっています。PLAは生分解性や堆肥化可能性を持ち、環境負荷の低減に貢献する材料として、様々な分野での応用が進められています。

PLA市場の堅調な成長と主要な推進要因

Spherical Insights & Consultingの予測によると、世界のバイオPLA市場は2024年の21.8億ドルから2035年には46.7億ドルへと大きく成長し、予測期間中に年平均成長率（CAGR）7.17%を達成する見込みです。この成長は主に以下の要因によって牽引されています。

- **持続可能な包装への需要増加:** 消費者および企業の環境意識の高まりから、従来のプラスチック包装から環境配慮型包装への転換が加速しています。
- **政府による規制強化:** 各国政府が使い捨てプラスチックに対する規制を厳格化しており、これによりバイオプラスチックの導入が促進されています。
- **技術革新と用途拡大:** PLAの加工技術や性能が継続的に向上し、新たな用途開発が進んでいます。例えば、TotalEnergies CorbionとUseonは高度なPLAフォーム技術の開発で提携し、PLAの応用範囲をさらに広げています。

地域別では、北米が市場成長の主要な牽引役となると予測されています。これは、北米が先進的な生産能力と、確立された産業用コンポストおよびリサイクルインフラを有しているためです。2024年時点では、PLA樹脂が市場で支配的なシェアを占めており、包装分野が最大のアプリケーションセグメントとなっています。

影響と今後の展望

バイオPLA市場の拡大は、包装産業をはじめとする多岐にわたる分野に大きな変革をもたらすでしょう。特に食品・飲料、消費財、医療といった分野では、PLAの利用がさらに進み、企業のサプライチェーン全体の持続可能性向上に貢献すると考えられます。一方で、PLAのコスト競争力、耐熱性やバリア性といった機能性向上、そしてリサイクル・堆肥化インフラのさらなる整備が、今後の普及における重要な課題となります。技術革新と政策支援が引き続き市場を後押しすることで、PLAは持続可能な社会の実現に向けた中核的な材料の一つとしての地位を確立していくと予想されます。

元記事: #

収集日: 2026年04月18日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

生分解性パッケージング市場、7.20%のCAGRで成長：バイオポリマーとコンポスト可能プラスチックが牽引

公開日 2026年04月15日 openPR.com (Data Bridge Market Research提供の洞察) アメリカ



Biodegradable Packaging Markt 7.20%
driven by Biopolymers and Compostable Plastics

概要

生分解性パッケージング市場は、PLAやPHAといったバイオベースポリマーの継続的な革新と、コンポスト可能プラスチックの進歩により、7.20%の堅調な年間複合成長率（CAGR）を達成すると予測されています。これらの技術的改善は、生分解性材料の性能、コスト効率、およびスケーラビリティを高め、様々な産業での採用拡大を促進しています。北米とヨーロッパが世界のR&D投資を牽引し、次世代生分解性パッケージングソリューションの商業化を積極的に推進。特にアジア太平洋地域は、急速な工業化と環境意識の高まり、政府の支援策により最も急速に成長する地域として注目されています。

詳細

背景：環境負荷低減を迫られる包装産業

使い捨てプラスチックによる環境汚染が世界的な課題となる中、包装産業は持続可能性への大きな転換期を迎えています。消費者意識の高まり、そして各国政府による厳格な環境規制強化は、企業に生分解性（biodegradable）および堆肥化可能（compostable）なパッケージング材料への移行を強く促しています。このような背景から、バイオベースポリマーやコンポスト可能プラスチックが、環境負荷の少ない代替材料として注目されています。

市場の成長要因と技術革新

Data Bridge Market Researchの洞察を引用したopenPR.comの報告によると、生分解性パッケージング市場は、7.20%という堅調な年間複合成長率（CAGR）で成長すると予測されています。この成長は、以下の主要な技術革新と市場動向によって推進されています。

- **バイオベースポリマーの進化:** ポリ乳酸（PLA）やポリヒドロキシアルカノエート（PHA）などのバイオベースポリマーにおける継続的な技術革新が、材料の性能向上、コスト効率の改善、そして生産規模の拡大を可能にしています。
- **コンポスト可能プラスチックの発展:** 堆肥化可能なプラスチック技術の進歩は、使用済みのパッケージが自然環境下で分解されることを可能にし、廃棄物問題の解決に貢献しています。
- **性能、コスト、スケーラビリティの向上:** これらの技術的改善により、生分解性材料は幅広い産業でより容易に採用されるようになってきました。

地域別の動向と今後の展望

世界のR&D投資は、北米とヨーロッパが牽引しており、両地域は次世代の生分解性パッケージングソリューションの商業化を積極的に推進しています。特にヨーロッパ市場は、ドイツ、イギリス、フランスの貢献が大きく、厳格な環境規制と活発なR&D活動によって特徴づけられています。アメリカも生分解性技術への多大な投資を行っています。

一方、アジア太平洋地域は、急速な工業化、環境意識の高まり、そして政府の支援イニシアティブにより、最も急速に成長する地域として認識されています。この地域では、中国、インド、日本などがバイオベース材料のイノベーションとインフラ整備に積極的に投資しており、世界の生分解性パッケージング市場の成長において中心的な役割を果たすと期待されています。

生分解性パッケージング市場の拡大は、食料品、飲料、パーソナルケア、医薬品など、多岐にわたる産業のサプライチェーンに持続可能性をもたらすでしょう。しかし、材料の標準化、リサイクル・堆肥化インフラの整備、そして最終製品のコスト抑制が、今後の市場普及における重要な課題として残されています。持続可能な社会の実現に向け、生分解性パッケージングは今後もその重要性を増していくと考えられます。

元記事: #

持続可能な軟包装市場における再生ポリエチレン：先端リサイクル技術が牽引

公開日 2026年04月13日 Market Research Report (Environmental Times Bahrainに転載) アメリカ



概要

持続可能な軟包装における再生ポリエチレン市場は、コスト効率と技術革新に重点を置きながら大きく成長しています。特に、解重合、熱分解、溶剤ベースの技術を含む高度な化学リサイクルは、汚染された混合プラスチック廃棄物をバージン品質に近い材料に加工できるため、最も急速に成長しているセグメントです。この革新は、高純度再生PETおよび循環型包装ソリューションへの需要増大に対応し、軟包装用途への統合を加速しています。食品・飲料包装セグメントが市場を牽引しており、アジア太平洋地域は有利な規制インセンティブと強力な需要により主要な地域として成長を続けています。

背景：プラスチック廃棄物問題と循環経済への移行

世界中で増大するプラスチック廃棄物問題は、環境汚染の主要因となっており、各国政府や企業は循環経済への移行を加速させています。特にポリエチレン（PE）は軟包装材料として広く使用されており、そのリサイクルは環境負荷低減の鍵となります。持続可能な軟包装における再生ポリエチレン（rPE）の需要は高まっており、技術革新とコスト効率の改善が市場成長の重要な要素となっています。

先端リサイクル技術と市場の主要動向

再生ポリエチレン市場では、特に高度な化学リサイクル技術が急速な成長を遂げています。これには、解重合（depolymerization）、熱分解（pyrolysis）、溶剤ベースのリサイクルといった手法が含まれます。これらの技術は、従来の機械的リサイクルでは困難だった汚染された混合プラスチック廃棄物から、バージン品質に近い再生材料を製造することを可能にします。これにより、高純度の再生PET（rPET）や、その他の循環型包装ソリューションへの需要に対応し、軟包装用途への統合が加速しています。

• 化学リサイクルの利点:

- 汚染された複合プラスチックからの高純度材料生成
- バージン素材と同等の品質
- 幅広い種類のプラスチック廃棄物に対応可能

- **市場牽引セグメント:** 食品・飲料包装セグメントは、製品の品質維持と賞味期限延長の必要性から、この市場で引き続き支配的な地位を占めています。再生プラスチックの使用は、ブランドイメージ向上にも寄与します。

影響と地域別展望

再生ポリエチレン市場の拡大は、包装産業全体のサプライチェーンに大きな影響を与えます。企業は、環境目標達成と消費者からの持続可能性への期待に応えるため、再生材料の採用をさらに加速させるでしょう。特にHindustan Unilever、Amazon India、Amcor、Berry Globalといった企業は、持続可能な包装技術の推進とリサイクルインフラの拡大に向けたイニシアチブや合併に積極的に関与しています。

地域別では、アジア太平洋地域が再生PE市場の主要な牽引役として台頭しています。これは、同地域における有利な規制インセンティブ、および食品・飲料やEコマース分野からの堅調な需要に支えられています。中国やインドなどの国々では、環境保護政策が強化され、プラスチックリサイクル産業への投資が加速しており、今後も持続可能な包装材料への移行が強力に推進されると予想されます。

元記事: <https://www.environmentaltimesbahrain.com/article/891999105-recycled-polyethylene-for-sustainable-flexible-packaging-market-cost-price-analysis-key-players-technology-trends-and-regional-outlook>

収集日: 2026年04月18日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

PEEK粗粉末市場の展望：高温産業用途と3Dプリンティングが成長を牽引

公開日 2026年04月15日 Market Research Report (Intel Market Researchに転載) アメリカ



概要

グローバルPEEK粗粉末市場は、2026年の1億3870万ドルから2034年には2億1590万ドルへと、年間複合成長率（CAGR）5.7%で成長すると予測されています。この成長は主に、航空宇宙や自動車部品などの高温産業用途での需要増加に起因します。PEEK（ポリエーテルエーテルケトン）はその卓越した機械的強度、熱安定性、化学抵抗性で知られ、エネルギー分野や先進3Dプリンティング技術において新たな機会が生まれています。ただし、高い生産コストと複雑な加工要件が課題となっています。

背景：高機能ポリマーへの需要の高まり

現代の産業は、極限環境下での使用に耐える高性能な材料を求めています。特に、航空宇宙、自動車、医療、エネルギーといった分野では、従来の金属材料では満たせない軽量性、耐熱性、耐薬品性、機械的強度を兼ね備えたポリマー材料への需要が急速に拡大しています。このような背景において、PEEK（ポリエーテルエーテルケトン）は、その卓越した特性から「スーパーエンジニアリングプラスチック」として注目を集めています。

PEEK粗粉末市場の成長と主要特性

グローバルPEEK粗粉末市場は、Market Research Reportの分析によると、2026年の1億3870万ドルから2034年には2億1590万ドルに達し、年間複合成長率（CAGR）5.7%で成長すると予測されています。この成長は、主に高温下での産業用途における需要の増加によって牽引されています。

PEEKは、以下の優れた特性を持つことで知られています。

- **卓越した機械的強度:** 高い剛性と引張強度を持ち、金属代替として利用可能です。
- **優れた熱安定性:** 250℃までの高温環境下でも安定した性能を維持します。
- **高い化学抵抗性:** 幅広い化学薬品に対して優れた耐性を示します。

これらの特性により、航空宇宙産業における軽量構造部品や、自動車産業におけるエンジン周辺部品、さらには医療分野のインプラント材料など、多岐にわたる高機能用途でPEEKが採用されています。

課題、新たな機会、および今後の展望

PEEKは優れた特性を持つ一方で、その高い生産コスト（1kgあたり300～500ドル）と、精密な乾燥や水分管理を含む複雑な加工要件が普及における課題となっています。しかし、市場には大きな機会も存在します。

- **エネルギー分野での応用:** 石油・ガス採掘や再生可能エネルギー分野では、PEEKの耐薬品性が厳しい環境下での機器に不可欠であり、需要が拡大しています。

- **先進3Dプリンティング技術:** 工業用アディティブマニュファクチャリングにおいて、PEEK粗粉末は新しいアプリケーション領域を切り開いています。3Dプリンティングにより、複雑な形状の部品を効率的に製造できるため、PEEKの新たな用途開発が加速しています。

今後は、製造コストの低減、加工技術のさらなる最適化、および3Dプリンティング技術との融合が、PEEK粗粉末市場のさらなる成長を促進する鍵となるでしょう。これにより、PEEKはより広範な産業分野で、高性能材料としての地位を確立していくことが期待されます。

元記事: <https://www.intelmarketresearch.com/peek-coarse-powder-market-38288>

収集日: 2026年04月18日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

高所作業車設計における軽量材料の応用：CFRPとGFRPが主導

公開日 2026年04月11日 ResearchGate (VAV Forkliftに転載) アメリカ



概要

この研究は、高所作業車（AWP）の設計において、炭素繊維強化ポリマー（CFRP）とガラス繊維強化ポリマー（GFRP）といった軽量材料の応用が増加していることを探究しています。これらの複合材料は、従来の金属代替品と比較して優れた比強度と比剛性を提供し、大幅な軽量化を可能にします。炭素繊維複合材料はAWPのブーム構造やプラットフォームバスケットに特に適しており、ガラス繊維複合材料は二次構造に費用対効果の高い選択肢を提供します。連続繊維強化熱可塑性複合シートである「オルガノシート」の開発は、AWP用途で特に有望視されており、製造の複雑さと初期コストが普及の課題となっています。

背景：高所作業車における軽量化の重要性

高所作業車（AWP: Aerial Work Platform）は、建設、メンテナンス、物流など、さまざまな産業で不可欠な機器です。しかし、その重量は運搬効率、燃費、作業範囲、安全性に直接影響を与えます。特にバッテリー式AWPでは、軽量化はバッテリー寿命の延長と走行距離の向上に直結し、運行コスト削減と環境負荷低減に大きく貢献します。このため、AWPの設計において、従来の金属材料に代わる軽量かつ高性能な材料への需要が高まっています。

CFRPおよびGFRP複合材料の主要な応用

本研究は、AWPの設計における軽量材料の応用、特に炭素繊維強化ポリマー（CFRP）とガラス繊維強化ポリマー（GFRP）の採用増加に焦点を当てています。これらの複合材料は、従来の金属材料と比較して格段に優れた比強度（強度対密度比）と比剛性（剛性対密度比）を提供し、AWPの大幅な軽量化を実現する可能性を秘めています。

● 炭素繊維強化ポリマー（CFRP）：

- **特性:** 卓越した剛性、低密度、優れた寸法安定性
- **用途:** AWPのブーム構造やプラットフォームバスケットなど、高い強度と軽量性が求められる主要構造部に適しています。エンジニアは繊維配向を最適化することで、荷重経路に合わせた設計が可能です。

● ガラス繊維強化ポリマー（GFRP）：

- **特性:** 炭素繊維よりも費用対効果が高く、引張強度と耐衝撃性のバランスが優れています。
- **用途:** 二次構造部材など、コスト効率と性能のバランスが求められる部分に選択肢を提供します。

オルガノシートの開発と今後の展望

特に注目すべきは、「オルガノシート」と呼ばれる連続繊維強化熱可塑性複合シートの開発です。この材料は、熱可塑性樹脂の優れた成形性と連続繊維による高い強度を兼ね備えており、AWP用途において非常に有望視されています。オルガノシートは、複雑な複合部品の費用対効果の高い生産を可能にし、製造プロセスの効率化に貢献すると期待されています。

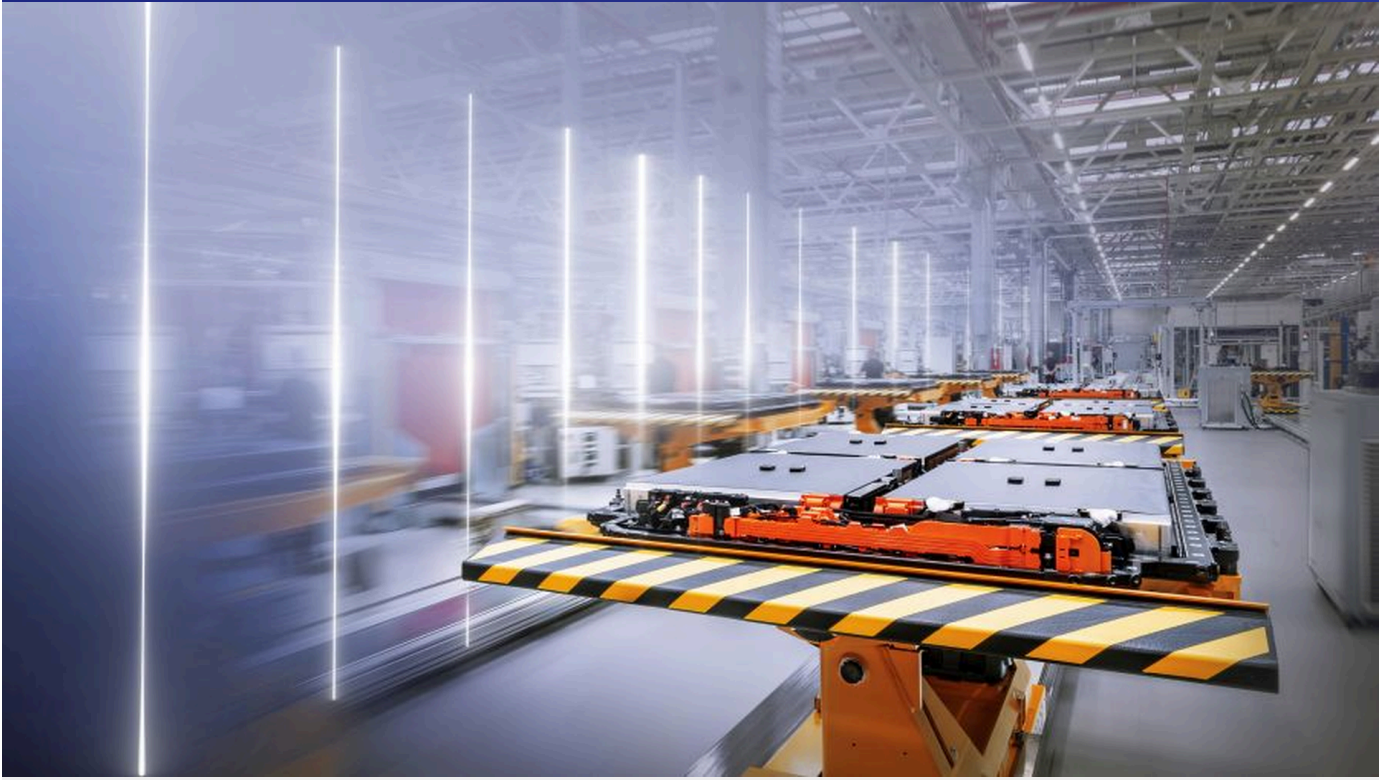
しかし、複合材料のAWP設計への広範な導入には、製造の複雑性や初期コストといった課題が残されています。これらの課題を克服するためには、生産技術のさらなる革新とコスト削減努力が不可欠です。将来的には、これらの軽量材料の採用がAWPの性能向上、運用効率の改善、そして持続可能性への貢献を加速させると考えられます。

元記事: <https://www.vavforklift.com/Application-Progress-of-Lightweight-Materials-in-the-Design-of-Aerial-Work-Platforms-n.html>

収集日: 2026年04月18日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

BASFとTSR Group、欧州でEVバッテリーリサイクルの戦略的提携を発表

公開日 2026年04月17日 Don't waste it! ドイツ



概要

BASFと欧州の金属リサイクル大手TSR Groupは、2026年4月15日に電気自動車（EV）バッテリーリサイクルを加速するための戦略的提携を発表しました。この提携は、急速な電動モビリティの拡大に伴う使用済みEVバッテリー管理の課題に対応することを目的としています。両社はそれぞれの専門知識を活用し、重要な原材料の安全かつ安定した循環経済を長期的に確立することを目指しています。この取り組みは、欧州自動車産業がバッテリー材料の自給自足と、重要な資源の回収に向けて重要な一歩を踏み出すことを示しています。

背景：電動モビリティの拡大とバッテリーリサイクルの課題

世界的に電気自動車（EV）の普及が加速する中、EVバッテリーの製造とそのライフサイクル後の処理は、持続可能な電動モビリティ社会を構築するための喫緊の課題となっています。使用済みEVバッテリーには、リチウム、コバルト、ニッケルなどの貴重な金属資源が豊富に含まれており、これらを効率的に回収し再利用する「循環経済」の確立が強く求められています。特に欧州では、バッテリー生産のサプライチェーンにおける自給自足性を高めることが戦略的に重要視されています。

BASFとTSR Groupの戦略的提携

この課題に対応するため、世界的な化学大手であるBASFと、欧州の金属リサイクル分野で主要な地位を占めるTSR Groupは、2026年4月15日にEVバッテリーリサイクルを加速するための戦略的提携を発表しました。この提携は、両社の専門知識を融合し、重要な原材料の安全で安定した循環経済を長期的に確立することを目的としています。

- **BASFの役割:** バッテリー材料の製造における深い知識と技術を提供します。
- **TSR Groupの役割:** 欧州全域での金属リサイクルにおける広範なネットワークと実績を活かし、使用済みEVバッテリーの効率的な収集、選別、前処理を行います。

BASFのバッテリー材料部門プレジデントであるダニエル・シェーンフェルダー氏は、高性能で安全な循環経済を構築するためには強力なパートナーシップが不可欠であると強調しています。このアライアンスは、バッテリー材料のサプライチェーン全体にわたる持続可能性と効率性を向上させることを目指しています。

欧州自動車産業への影響と今後の展望

この戦略的提携は、欧州自動車産業にとって極めて重要な意味を持ちます。現在、EVバッテリー製造に必要な多くの原材料は、主にアジア地域からの輸入に依存しており、地政学的なリスクやサプライチェーンの不安定性が懸念されています。本提携を通じて、欧州域内でのバッテリー材料の回収・再利用が進めば、原材料の自給自足性が向上し、地域の産業競争力強化に貢献します。

また、リサイクルプロセスの効率化は、新たな資源採掘に伴う環境負荷の低減にも繋がります。今後は、リサイクル技術のさらなる高度化、回収インフラの拡充、そしてリサイクルされた材料の品質安定化が、循環経済の実現に向けた重要な課題となるでしょう。本提携は、持続可能な電動モビリティ社会への移行を加速させる上で、欧州における模範的な事例となることが期待されます。

元記事: <https://dontwasteit.hu/en/new-european-strategic-alliance-basf-and-tsr/>

収集日: 2026年04月18日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

合成・バイオエマルションポリマー市場、2036年までに66.36億ドル規模へ：環境対応と高性能化が推進

公開日 2026年04月17日 openPR.com (Future Market Insights Inc.提供の洞察) アメリカ



概要

世界の合成・バイオエマルションポリマー市場は、2026年の40.74億ドルから2036年には66.36億ドルへと、年間複合成長率（CAGR）5.0%で成長すると予測されています。この成長は、業界が環境規制遵守と高性能材料システムへの移行を進めていることを反映しています。規制圧力と持続可能性の要求により、塗料、コーティング、接着剤、包装などの様々な用途で、溶剤系樹脂から水性エマルションポリマーへの移行が大きく進んでいます。酢酸ビニルポリマーが製品セグメントをリードし、塗料・コーティングが最大の用途分野です。欧州と北米は高性能かつ持続可能なポリマーソリューションに注力しており、Dow Chemical Company、AkzoNobel、BASFなどの主要企業がイノベーションを推進しています。

背景：環境規制と持続可能性が牽引するポリマー市場の変革

近年、化学産業は世界的な環境規制の強化と、消費者および企業からの持続可能性への要求の高まりに直面しています。特に、溶剤系樹脂に含まれる揮発性有機化合物（VOC）は、大気汚染や健康被害の原因となることから、その排出量削減が急務となっています。このような背景から、水系のエマルジョンポリマー、特に合成およびバイオエマルジョンポリマーへの需要が急速に拡大しており、ポリマー市場全体に大きな変革をもたらしています。

市場の成長要因と主要技術動向

Future Market Insights Inc.の洞察を引用したopenPR.comの報告によると、世界の合成・バイオエマルジョンポリマー市場は、2026年の40.74億ドルから2036年には66.36億ドルに達し、年間複合成長率（CAGR）5.0%で成長すると予測されています。この成長は主に以下の要因によって推進されています。

- **環境規制への対応:** 環境規制の強化が、塗料、コーティング、接着剤、包装などの様々な用途で、溶剤系樹脂から環境負荷の低い水性エマルジョンポリマーへの移行を加速させています。
- **高性能材料システムへのシフト:** 環境対応だけでなく、耐水性、接着性、耐久性といった高性能要件を満たすエマルジョンポリマーの開発が進んでいます。
- **バイオベースソリューションの台頭:** 植物由来の原料を使用したバイオエマルジョンポリマーの開発・商業化が、持続可能性へのコミットメントを強化し、市場成長に寄与しています。

製品セグメントでは、酢酸ビニルポリマーがその強力な接着性、優れた皮膜形成特性、水系システムとの高い相溶性により、引き続き市場をリードしています。また、用途別では塗料・コーティング分野が最大の使用シェアを占めており、建築用塗料や産業用コーティングでの需要が堅調です。

地域別動向と主要企業の戦略

市場のトップ成長地域には、中国、インド、ドイツ、フランス、英国、そして米国が含まれます。特に欧州と北米は、高性能かつ持続可能なポリマーソリューションの開発に注力しており、技術革新をリードしています。Dow Chemical Company、AkzoNobel、DIC Corporation、Celanese、Arkema S.A.、BASFといった主要な化学企業は、先進的なポリマー配合技術とバイオベースソリューションを通じて、イノベーションと競争優位性を推進しています。

この市場の成長は、高分子・樹脂産業において、より環境に優しく、かつ高機能な製品を提供するための技術開発と投資が加速していることを示しています。今後も、持続可能性と性能の両立が、エマルションポリマー市場のさらなる発展の鍵となるでしょう。

元記事: <https://www.openpr.com/news/4476012/synthetic-and-bio-emulsion-polymer-market-to-reach-usd-66-36>

ランクセス、イオン交換樹脂に原材料費高騰対応のサーチャージ導入

公開日 2026年04月13日 プラタイムス 日本



概要

ドイツの特殊化学品メーカーであるランクセスは、主要製品であるレバチットイオン交換樹脂および関連製品に対し、6～8%のサーチャージを導入すると発表しました。これは、世界的なサプライチェーンおよび生産プロセスにおける原材料コストの高騰に対応するための措置で、2026年4月9日から適用されます。レバチットイオン交換樹脂は、半導体製造や発電施設など、高純度水を必要とする産業で広く利用されており、今回の価格調整はアジア市場を含む関連業界に影響を与える可能性があります。

背景：特殊化学品市場におけるコスト上昇圧力

世界経済の変動は、化学品市場、特に特殊化学品のサプライチェーンに大きな影響を与えています。原材料価格の高騰、エネルギーコストの上昇、および物流費の増加は、メーカーにとって避けられないコストアップ要因となっており、最終製品の価格調整を余儀なくされるケースが増加しています。このような状況は、特に高純度水処理に不可欠なイオン交換樹脂のような基幹材料を供給する企業にとって、経営上の課題となっています。

ランクセスの価格調整とイオン交換樹脂の重要性

ドイツの特殊化学品大手であるランクセスは、2026年4月13日に、同社の液体精製技術（Liquid Purification Technologies）ビジネスユニットが製造するレバチットイオン交換樹脂および関連製品に対し、6～8%のサーチャージを導入すると発表しました。この価格調整は、2026年4月9日より適用されています。

この措置は、グローバルなサプライチェーン全体で継続的に上昇している原材料コストと生産プロセスの費用に対応するために実施されます。イオン交換樹脂は、以下のような幅広い産業でその高性能が不可欠とされています。

- **水処理産業:** 半導体製造プロセスにおける超純水製造、火力・原子力発電所のボイラー水処理、医薬品製造における精製水製造など、極めて高い水質が要求される用途。
- **食品・飲料産業:** 飲料水の軟水化、ジュースの脱酸、砂糖の精製など。
- **化学・金属産業:** 貴金属の回収、化学物質の分離・精製など。

ランクセスのレバチット製品群は、これらの産業における水処理の効率性と安全性を支える重要な役割を担っています。

市場への影響と今後の展望

今回のランクセスによる価格調整は、高純度水に大きく依存する半導体、発電、医薬品などの産業、特にアジア市場に影響を及ぼす可能性があります。これらの産業では、材料コストの変動が最終製品の製造コストに直接的に反映されるため、企業はサプライチェーン全体でのコスト管理を一層強化することが求められるでしょう。

また、この価格調整は、他の特殊化学品メーカーにも同様のコスト上昇圧力がかかっていることを示唆しており、今後、関連製品の価格動向にも影響を与える可能性があります。長期的には、原材料の安定供給とコスト競争力の確保が、イオン交換樹脂市場のメーカーにとって重要な経営課題となるでしょう。企業は、技術革新による生産効率の向上や、サプライチェーンの最適化を通じて、変動する市場環境に対応していく必要があります。

元記事: https://www.gomutimes.co.jp/?page_id=148250

収集日: 2026年04月18日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

バイオプラスチック市場、2035年に1191億ドル規模へ： 環境規制とアジアの投資が成長を加速

公開日 2026年04月17日 NEWSCAST (株式会社レポートオーシャン経由) 日本



概要

バイオプラスチック市場は、2025年の238.1億ドルから2035年には1191.2億ドルへと、2026年から2035年にかけて年間複合成長率（CAGR）17.47%という目覚ましい成長が予測されています。この急速な拡大は、プラスチック廃棄物削減を目指す規制圧力の強化と、企業の持続可能性へのコミットメントの高まりによって主に推進されています。特にアジア太平洋地域は、中国、日本、インドといった国々がバイオベース材料のイノベーションと必要なインフラに積極的に投資しており、この成長を牽引する主要なドライバーとなると予想されます。日本は2050年カーボンニュートラル目標達成のため、持続可能な材料への移行を推進し、バイオプラスチック革新の重要な中心地としての地位を確立しています。

背景：環境問題解決の切り札としてのバイオプラスチック

世界的にプラスチック廃棄物の問題が深刻化し、海洋汚染や地球温暖化への影響が懸念される中、持続可能な社会の実現に向けた材料開発が喫緊の課題となっています。特に、植物由来の再生可能な資源を原料とするバイオプラスチックは、従来の石油由来プラスチックと比較して環境負荷が低いことから、その普及と応用が強く期待されています。各国政府は使い捨てプラスチックの規制を強化し、企業もサステナビリティ目標達成のためにバイオプラスチックへの転換を加速しています。

バイオプラスチック市場の急速な成長と主要な推進要因

株式会社レポートオーシャン経由のNEWSCASTの報告によると、バイオプラスチック市場は今後10年間で劇的な成長を遂げると予測されています。具体的には、2025年の238.1億ドルから2035年には1191.2億ドルへと、2026年から2035年の期間で年間複合成長率（CAGR）17.47%という驚異的な成長が見込まれています。この成長は、以下の主要な要因によって強力に推進されています。

- **環境規制の強化:** 欧州、北米、そして特にアジア太平洋地域の各国政府は、使い捨てプラスチックの使用禁止やプラスチック廃棄物の削減に関する規制を厳格化しており、産業界にバイオプラスチックへの移行を促しています。
- **企業のサステナビリティへのコミットメント:** 多くのグローバル企業が、サプライチェーン全体の環境負荷を低減し、企業価値を高めるために、バイオプラスチックの採用を加速させています。
- **イノベーションとインフラ投資:** バイオベース材料の性能向上と生産コストの削減に向けた技術革新が進み、それに伴う生産インフラへの投資も活発化しています。

アジア太平洋地域の役割と日本の貢献

アジア太平洋地域は、このバイオプラスチック市場の成長を牽引する主要なドライバーとなると予測されています。中国、日本、インドといった経済大国が、バイオベース材料のイノベーションと必要な生産インフラに積極的に投資していることがその背景にあります。

特に日本は、2050年カーボンニュートラル達成という国家目標を掲げ、産業界全体で持続可能な材料へのシフトを強力に推進しています。自動車、エレクトロニクス、包装、繊維など多岐にわたる産業分野で、バイオプラスチックの研究開発、実用化、そして商業化に向けた取り組みが活発に行われており、日本は世界のバイオプラスチック革新における重要な中心地としての地位を確立しつつあります。

市場への影響と今後の展望

バイオプラスチック市場の拡大は、様々な産業のサプライチェーンに持続可能性をもたらし、新たなビジネスチャンスを創出します。しかし、高機能化、コスト競争力の確保、そして最終的な廃棄・リサイクルシステムの構築は、今後の市場普及における重要な課題です。技術革新の継続と、政府、企業、消費者の連携によるエコシステムの確立が、バイオプラスチックが持続可能な社会の実現に貢献するための鍵となるでしょう。

元記事: <https://newscast.jp/news/4598740>

収集日: 2026年04月18日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

3Dプリンティング海外動向報告会2026：米国Rapid+TCT 展示会の最新トレンド

公開日 2026年04月16日 日本保全学会 (日本3Dプリンティング産業技術協会の発表を掲載) 日本



概要

日本3Dプリンティング産業技術協会は、第39回ビジネスセミナーとして「3Dプリンティング海外動向報告会2026（米国）」の開催を発表しました。このセミナーでは、2026年4月13日から16日にボストンで開催された主要な3Dプリンター・アディティブマニュファクチャリング展示会「Rapid+TCT 2026」の包括的な調査結果が報告されます。特に、高性能ポリマーフィラメントや樹脂などの材料、装置、応用事例、新興技術に焦点が当てられます。また、米国の大学や研究機関への訪問・インタビューを通じて得られた知見も盛り込まれ、3Dプリンティングの最新グローバル動向を包括的に提供する内容となっています。

背景：アディティブマニュファクチャリング技術の進化と国際動向

3Dプリンティング、あるいはアディティブマニュファクチャリング（AM）技術は、製造業における革新的な手法として急速に進化を遂げています。試作から最終製品の生産まで、その応用範囲は広がりを見せており、航空宇宙、自動車、医療、消費財など、多岐にわたる産業で採用が進んでいます。技術の進歩は日進月歩であり、特に材料分野における高性能ポリマーの開発は、AM技術の可能性をさらに広げる重要な要素となっています。このような状況において、国際的な展示会は最新技術動向を把握するための重要な場となっています。

「Rapid+TCT 2026」報告会と主要なテーマ

日本3Dプリンティング産業技術協会は、第39回ビジネスセミナーとして「3Dプリンティング海外動向報告会2026（米国）」を開催すると発表しました。このセミナーは、2026年5月25日に会場で、同年6月10日にウェビナー形式で実施される予定です。報告会の核となるのは、2026年4月13日から16日に米国ボストンで開催された、世界有数の3Dプリンターおよびアディティブマニュファクチャリングの展示会「Rapid+TCT 2026」における調査結果です。

報告会では、Rapid+TCT 2026で注目された以下の主要な動向と技術が紹介されます。

- **装置技術:** 最新の3Dプリンティング機器の進化、高速化、大型化、高精度化に関する情報。
- **材料革新:** 特に高機能ポリマーフィラメントや樹脂に焦点が当てられ、耐熱性、強度、柔軟性、生体適合性など、特定の用途に特化した新材料の開発動向が報告されます。これには、PEEK、ナイロン、TPU、バイオポリマーなども含まれる可能性があります。
- **応用事例:** 航空宇宙部品、自動車部品、医療機器、カスタム製品など、実際の産業応用における成功事例や新たな展開。
- **新興技術:** 積層造形プロセスの革新、ソフトウェアによる最適化、後処理技術の進化など。

さらに、報告会では、併催されたTCTカンファレンスでの議論内容や、米国の大学、研究機関への訪問、主要人物へのインタビューを通じて得られた知見も盛り込まれる予定です。これにより、参加者は3Dプリンティング技術の最新グローバル動向を多角的な視点から包括的に理解する機会を得られます。

産業への影響と今後の展望

この報告会は、日本の製造業、特に高分子・樹脂産業における企業にとって、世界の最先端技術トレンドを把握し、自社の研究開発戦略や事業戦略に反映させる上で極めて有益な情報源となります。高性能ポリマー材料は、3Dプリンティングによる最終部品製造の可能性を大きく広げ、軽量化、機能統合、カスタマイズといったニーズに応える鍵となります。

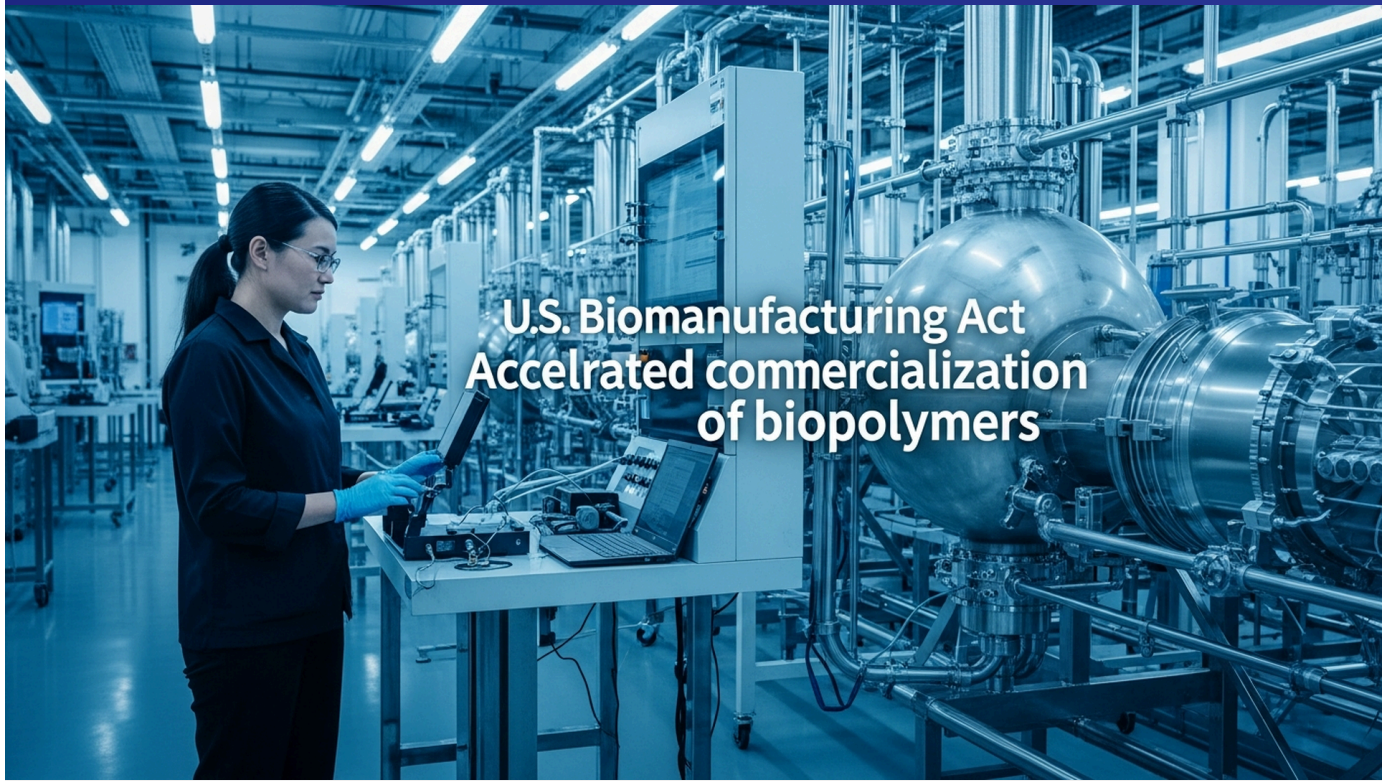
今後、3Dプリンティング技術は、より高度な材料との組み合わせにより、これまで以上に多様な産業分野で標準的な製造手法として確立されていくでしょう。このような海外動向報告は、日本の産業が国際競争力を維持・強化し、イノベーションを推進していく上で不可欠な機会を提供します。

元記事: <https://www.jsm.or.jp/17653.html>

収集日: 2026年04月18日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

米国バイオマニュファクチャリング法制とバイオポリマーの商業化加速

公開日 2026年04月01日 Unspecified Industry Analysis/Report (Mushmycelに転載) アメリカ



U.S. Biomanufacturing Act
Accelerated commercialization
of biopolymers

概要

2026年初頭の米国の法制と産業界の進展は、バイオベース材料の商業化に向けた重要な転換点を示しています。米国では「バイオベース材料投資・生産法」が導入され、農業資源を再生可能材料に転換する国内バイオマニュファクチャリングに対し、税額控除などの財政インセンティブを提供します。同時に、Kintra FibersやSelenis、ZymoChemなどの材料科学企業は、100%バイオベースで生分解性のPBS樹脂や高吸水性ポリマーなどの代替材料を商業規模で生産しており、既存の重合インフラと独自のバイオプロセスを活用して、コスト競争力のある「ドロップイン」代替品を提供しています。これらの動きは、次世代のビーガンレザーや構造用バイオ材料向けの強固でスケラブルなサプライチェーン構築に貢献すると期待されています。

背景：持続可能な製造への政策的推進と技術革新

気候変動と資源枯渇の懸念が高まる中、世界各国は持続可能な製造業への移行を加速させています。特に、石油由来の材料に依存しないバイオベース材料の開発と商業化は、環境負荷の低減と循環型経済の実現に向けた重要な戦略とされています。米国では、政府が政策的支援を通じて国内のバイオマニュファクチャリングを奨励し、同時に民間企業が革新的なバイオポリマーのスケールアップを推進する動きが顕著になっています。

米国におけるバイオマニュファクチャリングの法制化と産業的進展

2026年初頭、米国ではバイオベース材料の商業化を加速させるための重要な法制と産業的進展が見られました。共和党・民主党の超党派で「バイオベース材料投資・生産法（Biobased Materials Investment and Production Act）」が導入され、国内のバイオマニュファクチャリング投資に対する財政的リスクを軽減することを目的としています。

● 税制優遇措置:

- 農業資源を食品や燃料以外の再生可能材料に転換する施設に対し、1ポンドあたり0.10ドルの生産税額控除、または30%の投資税額控除が提供されます。
- これは、バイオベース材料の生産コストを削減し、競争力を高めるための重要なインセンティブとなります。

これと並行して、材料科学企業はバイオベースの代替材料の商業規模での生産を実現しています。

● 主要なバイオポリマー製品:

- **Kintra FibersとSelenis:** 共同で100%バイオベースで生分解性のポリブチレンサクシネート（PBS）樹脂の工業化を進めています。PBSは柔軟性と生分解性を兼ね備え、包装材や繊維などへの応用が期待されます。
- **ZymoChem:** 100%バイオベースで生分解性の高吸水性ポリマー「BAYSE」を発売しました。これは、衛生用品業界で広く使われる化石燃料由来のポリアクリレート代替を目指しており、持続可能な選択肢を提供します。

これらの企業は、既存の重合インフラと独自のバイオプロセスを活用することで、コスト競争力を確保し、従来の材料からの「ドロップイン」代替（既存システムにそのまま適用可能な代替）を実現しています。

影響と今後の展望

これらの法制化と産業的進展は、非化石由来のバインダー、コーティング、繊維、そして次世代のビーガンレザーや構造用バイオ材料向けの、強固でスケラブルなサプライチェーンの構築を約束します。高分子・樹脂産業は、より環境に配慮した製品開発と生産にシフトし、新たな市場機会を創出するでしょう。

しかし、バイオベース材料の普及には、性能、コスト、供給安定性、そして適切な廃棄・リサイクルインフラの整備など、依然として課題が存在します。政府の政策支援と企業の技術革新が継続的に連携することで、バイオベース材料は持続可能な社会の実現に向けた中核的なソリューションの一つとして、その地位を確立していくことが期待されます。

元記事: <https://www.mushmycel.com/blogs/eco-friendly/bio-polymers-legislation-briefing-2026-4>

収集日: 2026年04月18日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

英国エンジニアリングプラスチックメーカーの展望：EVとPFAS規制が新需要を創出

公開日 2026年04月12日 papaverAI イギリス



概要

本レポートは、2026年の英国エンジニアリングプラスチックメーカーにとっての主要な機会と課題を浮き彫りにしています。電気自動車（EV）の電動化は、PEEKやポリアミド（ナイロン）などの高性能プラスチックへの需要を大幅に増加させる主要な推進要因として特定されています。同時に、EUのPFAS規制強化フレームワークは、特定のPTFE用途におけるPEEKなどの新規材料仕様の需要を創出しています。医療機器や半導体・エレクトロニクス分野もPEEKの成長領域であり、アセタールや一般エンジニアリンググレードのナイロンはDACH市場で需要が見られます。EV製造におけるエンジニアリングプラスチック含有量の増加や、PFAS代替材料へのシフトが市場を牽引する重要なトレンドとなっています。

背景：高性能材料への需要と環境規制の圧力

現代の産業は、軽量化、高耐久性、耐熱性、耐薬品性など、厳しい性能要件を満たす高性能材料を求めています。特に、電気自動車（EV）の普及と、環境・健康への懸念からPFAS（有機フッ素化合物）の使用を制限する動きが世界的に加速する中、エンジニアリングプラスチックの役割は一層重要になっています。英国のエンジニアリングプラスチックメーカーは、このような市場の変化に対応し、新たなビジネスチャンスを捉える必要があります。

EVとPFAS規制が牽引するエンジニアリングプラスチックの新需要

papaverAIのレポートは、2026年における英国エンジニアリングプラスチックメーカーの主要な機会と課題を分析しています。特に、以下の二つの大きなトレンドが市場に影響を与えています。

- **電気自動車（EV）の電動化:** EVの製造は、ポリエーテルエーテルケトン（PEEK）やポリアミド（ナイロン）などの高性能プラスチックに対する需要を大幅に増加させています。
 - **PEEK:** モーター巻線、コネクタ、200℃以上の耐熱性が求められるシールなど、過酷な条件下で使用される部品に新たな用途を見出しています。
 - **ポリアミド（ナイロン）:** バッテリーハウジングや熱管理部品において、従来の金属部品の代替として使用され、車両の軽量化と性能向上に貢献しています。レポートでは、EV製造により車両あたりのエンジニアリングプラスチック含有量が40-60%増加すると推定されています。
- **EUのPFAS規制強化フレームワーク:** 有機フッ素化合物（PFAS）の使用に対する欧州連合（EU）の規制強化は、特定のPTFE（ポリテトラフルオロエチレン）用途において、PEEKなどの新規材料仕様に対する需要を生み出しています。PEEKは、PTFEが使用されてきた一部のアプリケーションにおいて、同等の耐熱性および耐薬品性を持ちながら、PFASフリーの代替材料として注目されています。

成長分野と今後の展望

EVおよびPFAS規制以外にも、以下のような分野でエンジニアリングプラスチックの需要が拡大しています。

- **医療機器:** 高い生体適合性、滅菌性、機械的強度が要求される部品にPEEKなどが利用されています。
- **半導体・エレクトロニクス:** 高温耐性や絶縁性が必要な部品にPEEKが応用されています。
- **DACH市場:** ドイツ、オーストリア、スイスの地域（DACH）における産業用OEMでは、アセタールや一般的なエンジニアリンググレードのナイロンに対する堅調な需要が見られます。

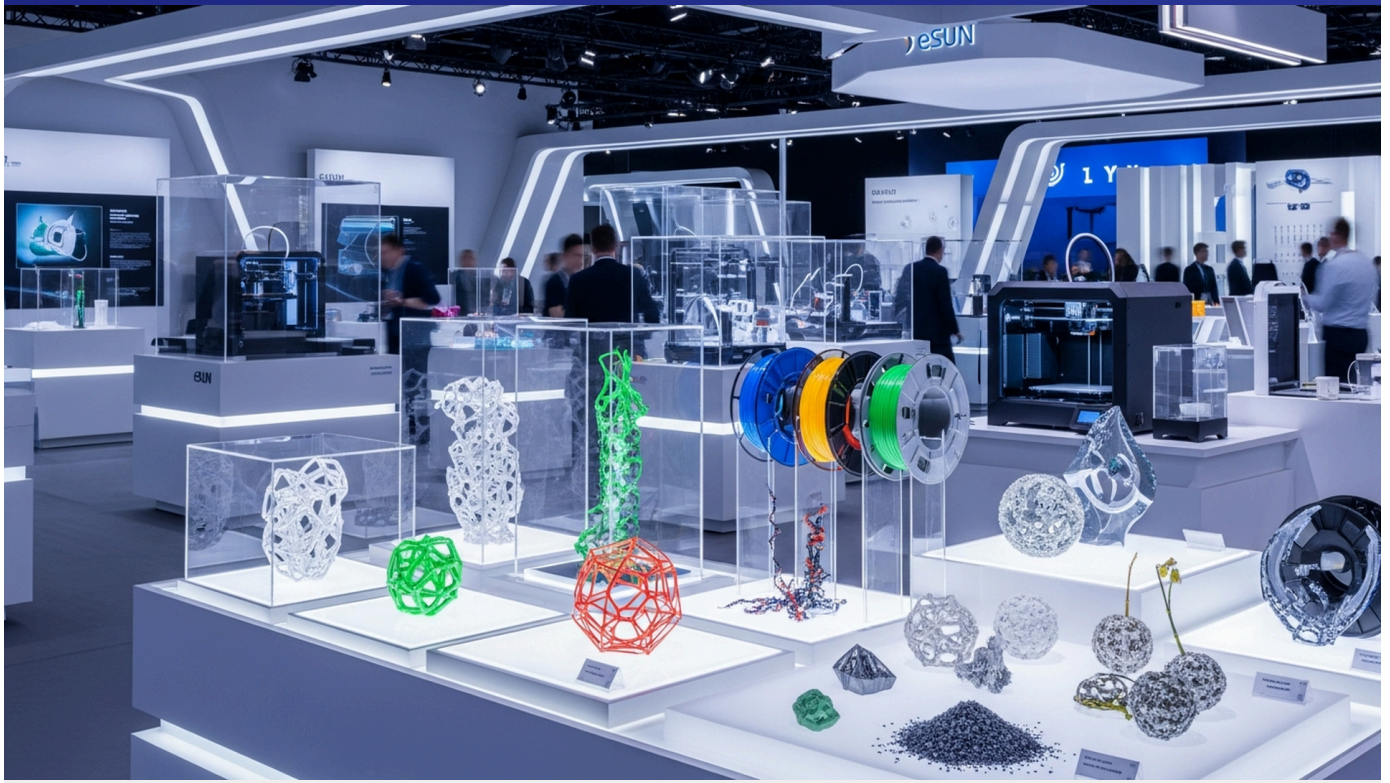
これらのトレンドは、英国のエンジニアリングプラスチックメーカーにとって、高付加価値な製品開発と市場参入の機会を創出しています。製造業は、新しい材料要件に対応するための研究開発投資を強化し、サプライチェーン全体での協力を深めることで、変化する市場ニーズに応えていく必要があるでしょう。PFASフリー材料への移行とEV市場の成長は、今後もエンジニアリングプラスチック産業の成長を強力に牽引する主要因となると考えられます。

元記事: <https://papaverai.com/blog/british-engineering-plastics-manufacturers/>

収集日: 2026年04月18日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

eSUN、Rapid+TCT 2026で3Dプリンティング材料の革新技術を展示

公開日 2026年04月10日 eSUN (プレスリリース) 中国



概要

中国の3Dプリンティング材料メーカーeSUNは、2026年4月14日から16日に米国ボストンで開催された「Rapid + TCT 2026」に出展し、最新の3Dプリンティング材料を発表しました。同社は、新たなTPUおよびPEBAフィラメントシリーズや、靴や柔軟な用途向けの単一成分発泡弾性樹脂といった柔軟な材料のポートフォリオを拡大。工業用途向けには、反りゼロに近いABS+、軽量で強靱なPEBA-LW、低表面抵抗率のPC-ESDなど、アップグレードされたエンジニアリング材料を導入しました。さらに、PLA-Metalや高速印刷対応のPLA-HF、色変化・蓄光PETGシリーズなど、美観と速度に特化した革新も展示され、コンシューマー向けから工業用まで幅広い用途に対応する材料革新へのコミットメントを示しました。

背景：3Dプリンティング市場の拡大と材料技術の進化

3Dプリンティング技術は、製造業におけるプロトタイプングから最終製品製造に至るまで、その応用範囲を急速に拡大しています。この技術の普及と高性能化を支える上で不可欠なのが、多様な特性を持つ3Dプリンティング材料の開発です。特にポリマーベースの材料は、柔軟性、強度、耐熱性、特殊機能性など、特定の用途要件を満たすために絶えず進化が求められています。世界中の材料メーカーは、このニーズに応えるため、研究開発に注力しています。

eSUNによる「Rapid+TCT 2026」での材料革新

中国の主要な3Dプリンティング材料メーカーであるeSUNは、2026年4月14日から16日に米国ボストンで開催された世界的な展示会「Rapid+TCT 2026」に出展し、同社の最新材料イノベーションを発表しました。eSUNは、コンシューマー向けから産業用途まで幅広いニーズに対応する、拡張された製品ポートフォリオを展示しました。

● 柔軟性材料の強化:

- 新たなTPU（熱可塑性ポリウレタン）およびPEBA（ポリエーテルブロックアミド）フィラメントシリーズは、高弾性と耐久性を兼ね備え、柔軟な部品の製造を可能にします。
- 靴やその他の柔軟性を必要とするアプリケーション向けに、単一成分で発泡可能な弾性樹脂が導入され、軽量化と快適性向上に貢献します。

● 工業用エンジニアリング材料のアップグレード:

- **ABS+**: 反り（warping）をほぼゼロに抑え、大型部品や精密部品の安定した印刷を可能にします。
- **PEBA-LW**: 軽量かつ強靱な柔軟部品の製造に適しており、ドローンやロボティクスなど、軽量化が求められる分野での応用が期待されます。
- **PC-ESD**: 低い表面抵抗率を持ち、静電気散逸性（ESD）を必要とする電子部品や製造治具向けに開発されました。

- **美観と速度の革新:**

- **PLA-Metal:** 金属のような質感と外観を持つフィラメントで、デザインプロトタイプや装飾品の作成に適しています。
- **PLA-HF:** 最大1000 mm/sの高速印刷に対応し、生産効率を大幅に向上させます。
- **PETGシリーズ:** 色変化や蓄光機能を持つなど、美観とエンターテインメント性を追求したオプションが追加されました。

影響と今後の展望

eSUNのこれらの材料開発は、「創造をよりシンプルに、製造をより効率的に」という同社のコミットメントを具現化するものです。これらの革新は、コンシューマー向けの趣味用途と工業向けの機能部品製造とのギャップを埋め、3Dプリンティング技術の応用範囲をさらに広げると期待されます。特に、高性能エンジニアリングプラスチックの進化は、航空宇宙、自動車、医療といった分野での最終部品製造における3Dプリンティングの採用を加速させるでしょう。

今後、材料メーカーは、特定の機能要件（例：生体適合性、耐薬品性、導電性）を満たすカスタマイズされたポリマー材料の開発と、製造プロセスの効率化に引き続き注力していくと考えられます。これにより、3Dプリンティングは、より多様な産業で主流の製造技術としての地位を確立していくでしょう。

元記事: <https://www.esun3d.com/news/rapid-tct-2026-esun/>

収集日: 2026年04月18日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

BASF、米国・カナダでネオペンチルグリコール製品の価格引き上げを発表

公開日 2026年04月16日 Coatings World アメリカ



概要

BASFは、2026年4月27日より米国とカナダでネオペンチルグリコール（NPG）製品全般の価格を引き上げると発表しました。この価格調整は、NPG生産の主要な原料であるプロピレンとメタノールを含む、原材料費の継続的な上昇によって必要とされたものです。BASFの「NEOL®」ブランドで販売されるNPGは、その優れた性能、高い化学的・熱的安定性で知られる重要なポリアルコールであり、ポリエステル樹脂やアルキド樹脂の必須構成要素として塗料やプラスチックに広く使用されています。この価格上昇は、NPG由来樹脂に依存する産業に潜在的な影響を与え、最終製品コストの増加につながる可能性があります。

背景：化学品市場における原材料費高騰の圧力

世界の化学品市場は、地政学的な要因、サプライチェーンの混乱、そしてエネルギー価格の変動などにより、原材料費の高騰という継続的な課題に直面しています。特に、石油化学製品を原料とする基礎化学品においては、その価格変動が川下の幅広い産業に波及します。このような状況下で、主要な化学品メーカーは、コスト構造の変化に対応するため、製品価格の調整を余儀なくされることがあります。

BASFによるネオペンチルグリコール（NPG）の価格引き上げ

世界的な化学大手であるBASFは、2026年4月16日に、同年4月27日から米国およびカナダにおいて、すべてのグレードおよび包装形態のネオペンチルグリコール（NPG）製品の価格を引き上げることを発表しました。この価格調整は、NPGの製造に不可欠な主要原材料であるプロピレンおよびメタノールのコストが継続的に上昇していることに対応するものです。

ネオペンチルグリコールは、BASFの「NEOL®」ブランドで展開されており、その卓越した性能、高い化学的安定性、優れた熱安定性で知られる重要なポリアルコールです。NPGは、特に以下の用途で広く利用されるポリエステル樹脂やアルキド樹脂の主要なビルディングブロックとして機能します。

- **塗料およびコーティング**: 建設資材や家電製品向けの粉体塗料、工業用塗料などに使用され、優れた耐久性、耐候性、光沢保持性を提供します。
- **プラスチック**: 高性能ポリエステルやその他のポリマーの製造に用いられ、材料の強度や耐熱性を向上させます。

市場への影響と今後の展望

BASFによるNPGの価格引き上げは、NPG由来の樹脂に依存する塗料、コーティング、プラスチック産業に連鎖的な影響を及ぼす可能性があります。これにより、最終製品の製造コストが増加し、消費価格に転嫁されることも考えられます。この動きは、化学産業全体が直面している原材料費上昇の広範な圧力の一部を反映しています。

高分子・樹脂産業においては、NPGのような重要なモノマーの価格変動は、サプライチェーンの安定性や製品開発戦略に直接的な影響を与えます。企業は、原材料の調達戦略の見直し、代替材料の検討、または製造プロセスの効率化を通じて、これらのコスト変動リスクに対応していく必要があります。長期的には、原材料の安定供給と持続可能な生産プロセスの確立が、化学品メーカーにとって競争優位性を維持するための重要な要素となるでしょう。

元記事: <https://www.coatingsworld.com/breaking-news/basf-to-increase-price-for-neopentylglycol-in-the-u-s-and-canada-2/>

収集日: 2026年04月18日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

EU循環経済法案2026：包装とリサイクル制度を根本から 変革

公開日 2026年04月09日 packaging-gateway.com (GlobalData) 欧州連合



概要

欧州委員会は、2026年にEU循環経済法案（CEA）を公開する準備を進めており、欧州全体の包装、リサイクルシステム、および二次原材料の使用に大きな影響を与える新たな規制が導入されます。この法案は、2030年までにEUの循環材料使用率を2倍にすることを目指し、リサイクル可能性と再利用を考慮した製品設計に重点を置きます。包装のリサイクル可能性、再生材含有量、設計に関するより厳格な基準が求められ、再生プラスチックなどの二次原材料の入手性と品質向上も図られます。包装生産者、加工業者、ブランドオーナーは、再生材含有量の義務化や材料トレーサビリティの強化に対応する必要が生じます。

背景：資源効率と環境保護を強化するEUの政策

欧州連合（EU）は、持続可能な発展と気候変動対策の推進において世界をリードしており、その中核をなすのが「循環経済」の概念です。リニアな「作って、使って、捨てる」経済モデルから脱却し、資源を最大限に活用し、廃棄物の発生を最小限に抑える循環型システムへの移行を目指しています。特に、包装材は大量に消費され廃棄されるため、この分野における資源効率の向上と環境負荷の低減は、EUの環境政策において極めて重要な位置を占めています。

EU循環経済法案2026の主要内容と影響

欧州委員会は、2026年に「EU循環経済法案（Circular Economy Act: CEA）」を公表する準備を進めており、これにより欧州全域の包装、リサイクルシステム、および二次原材料（リサイクル材など）の使用方法が根本的に変革される見込みです。この法案は、既存の政策をさらに強化し、2030年までにEUの循環材料使用率を現在の2倍にすることを目指しています。

CEAの主な要件と影響は以下の通りです。

- **製品設計の強化:** 包装材は、リサイクル可能性と再利用性を最大限に高めるように設計されることが義務付けられます。これは、材料の選択、構造、構成要素の分離性など、設計プロセスの初期段階からの変更を促します。
- **厳格な基準の導入:** 包装のリサイクル可能性、再生材含有量、およびデザインに関するより厳格な基準が設定されます。これにより、包装生産者、加工業者、ブランドオーナーは、製品がこれらの新基準を満たすことを証明する責任を負うこととなります。
- **二次原材料の質と供給の改善:** 特に再生プラスチックの入手性と品質を向上させるため、加盟国間での基準の統一と、リサイクル材の取引障壁の削減が図られます。これは、再生材市場の活性化に貢献します。
- **再生材含有量の義務化:** プラスチック包装を含む特定の包装材には、最小限の再生材含有量が義務付けられる可能性が高く、企業はサプライチェーン全体での再生材調達戦略を再構築する必要があります。

高分子・樹脂産業と今後の展望

EU循環経済法案は、高分子・樹脂産業に大きな影響を与えるでしょう。特に包装材を製造する企業は、リサイクルしやすい単一素材への移行、非化石由来のバイオベースポリマーの採用、そして再生プラスチックの活用を加速させる必要があります。技術革新は、高性能な再生材や生分解性材料の開発において、これまで以上に重要な役割を果たすでしょう。

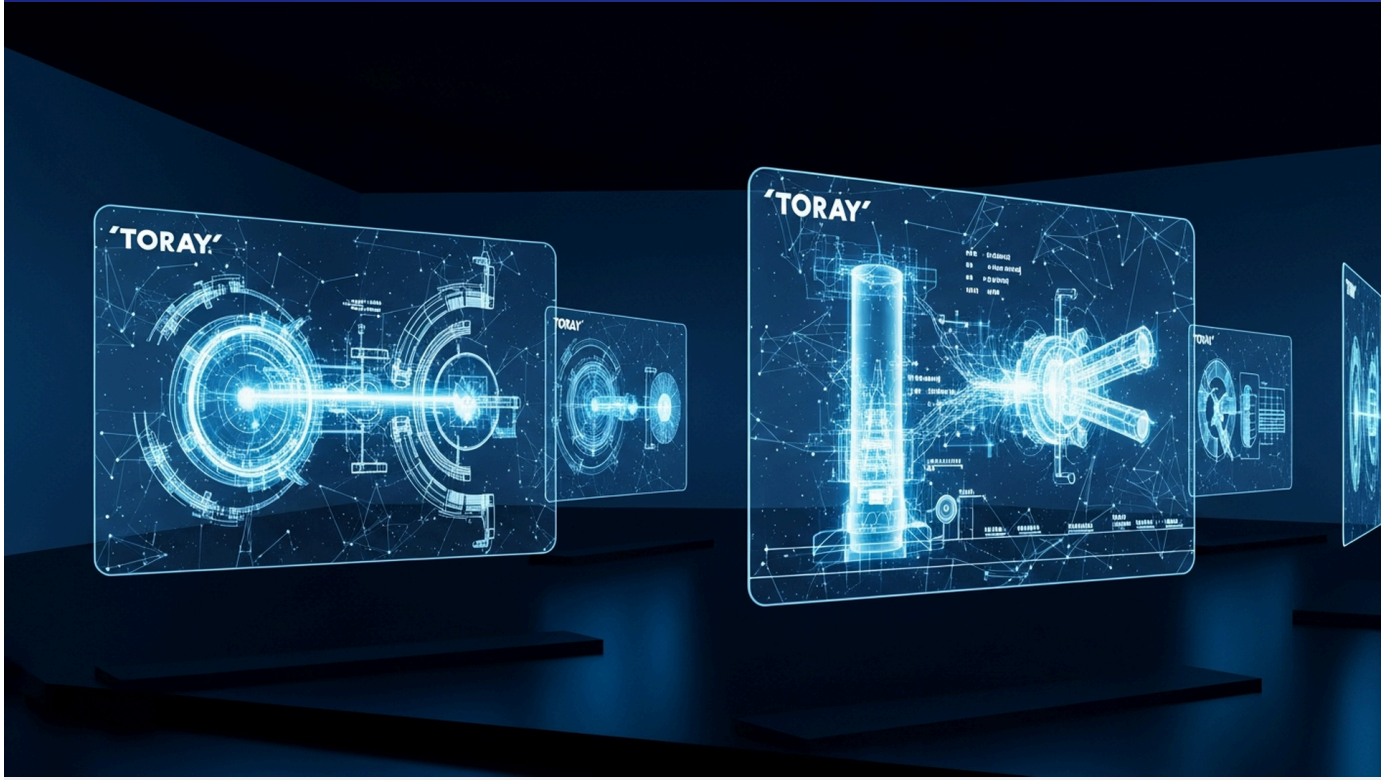
また、2026年7月31日から適用される予定の「修理指令（Repair Directive）」は、製品の長寿命化と交換に伴う包装廃棄物の削減を促進し、循環経済の方向性をさらに強化します。これらの法規制は、EU市場におけるビジネスモデルや製品ポートフォリオの再評価を促し、持続可能性を競争優位性とする新たなビジネスチャンスを生み出すことが期待されます。

元記事: <https://www.packaging-gateway.com/news/eu-circular-economy-act-2026-to-reshape-packaging-and-recycling/>

収集日: 2026年04月18日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

東レ、知的財産功労賞で経済産業大臣表彰を受賞：独自技術の可視化を評価

公開日 2026年04月13日 プラタイムス 日本



概要

東レ株式会社は、2026年4月10日に行われた2026年度知的財産功労賞において、経済産業大臣表彰を受賞しました。この賞は、知的財産権制度の円滑な運用と発展に貢献した企業に贈られるもので、東レは特にその独自技術の「見える化」への取り組みが高く評価されました。この表彰は、同社の先進材料・ポリマー事業における研究開発と知的財産戦略への強いコミットメントを強調するものです。

背景：知的財産の戦略的活用と企業競争力

現代のグローバル競争環境において、企業の知的財産（IP）は、技術優位性の確立、市場競争力の維持・向上、そして新たなビジネス創出の源泉として極めて重要な位置を占めています。特に、先端材料や高機能ポリマーといった分野では、独自の技術開発とその知的財産権の適切な管理・活用が、企業の成長戦略の核となります。日本政府も、知的財産権制度の発展と活用を通じて、産業全体の活性化を推進しています。

東レの知的財産功労賞受賞とその評価点

東レ株式会社は、2026年4月10日に発表された2026年度知的財産功労賞において、最高の栄誉である経済産業大臣表彰を受賞しました。この賞は、知的財産権制度の円滑な運用と発展に顕著な貢献をした企業や個人に贈られるもので、東レの取り組みが政府レベルで高く評価されたことを示しています。

東レが特に評価されたのは、その「独自技術の見える化」への取り組みです。これは、単に特許を取得するだけでなく、以下のような活動を通じて、社内外における技術の理解と活用を促進したことを意味します。

- **技術ポートフォリオの明確化:** 自社が保有する基盤技術や先端技術の全体像を体系的に整理し、どの技術がどの製品や事業に貢献しているかを可視化する活動。
- **戦略的IPマネジメント:** 研究開発の初期段階から知的財産戦略を組み込み、技術開発と特許出願を連携させることで、競争優位性を確立。
- **社内での共有と活用促進:** 技術者や事業部門が、自社の技術資産を理解し、新たな製品開発やソリューション提案に活かせるよう、情報共有の仕組みを構築。

この受賞は、東レが長年にわたり培ってきた高機能ポリマーや先端材料に関する研究開発と、それを支える知的財産戦略への強いコミットメントを明確に示しています。

高分子・樹脂産業への影響と今後の展望

東レのような大手材料メーカーが知的財産戦略で評価されることは、高分子・樹脂産業全体にとって大きな意義を持ちます。これは、技術革新を推進し、その成果を知的財産として適切に保護・活用することが、持続的な成長と競争力強化に不可欠であるというメッセージを発信します。

具体的には、東レの取り組みは以下の側面で産業に影響を与えるでしょう。

- **研究開発の加速:** 自社技術の可視化は、次のイノベーションの方向性を定める上で役立ち、新素材開発や応用技術の進化を加速させます。
- **協業の促進:** パートナー企業や研究機関との協業において、自社の強みを明確に提示できるため、より効果的なオープンイノベーションに繋がります。
- **国際競争力の強化:** 高性能ポリマー市場はグローバル競争が激しく、強固な知的財産ポートフォリオは、国際市場での優位性を確保する上で不可欠です。

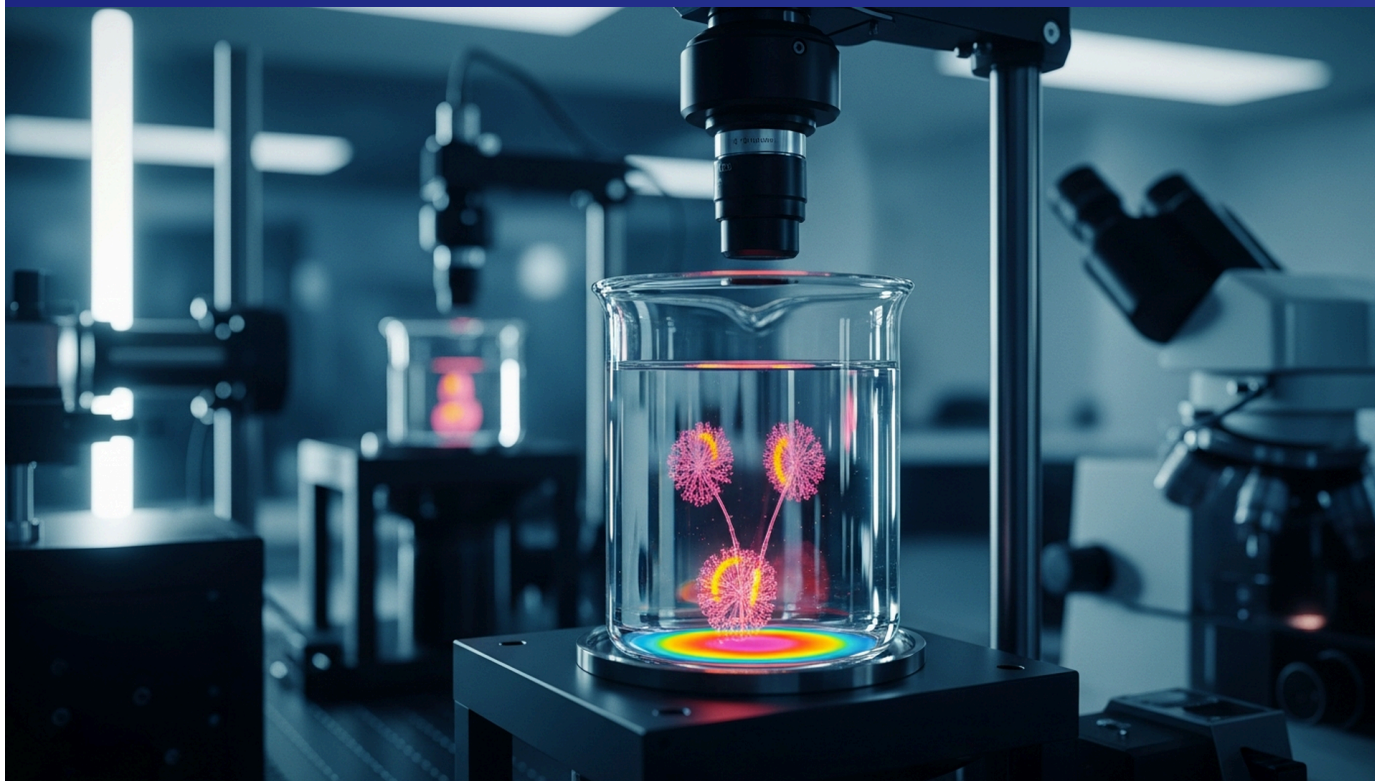
今後、高分子・樹脂メーカーは、単に優れた材料を開発するだけでなく、その技術を知的財産として戦略的に管理し、ビジネス価値を最大化する能力がますます求められるようになるでしょう。東レの受賞は、この方向性を示す模範的な事例と言えます。

元記事: https://www.gomutimes.co.jp/?page_id=148250

収集日: 2026年04月18日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

東レリサーチセンター、PEG水中ナノ構造を温度測定で評価する新技術開発

公開日 2026年04月17日 PR TIMES (東レリサーチセンター提供) 日本



概要

東レリサーチセンター（TRC）は、ポリエチレングリコール（PEG）が水中で形成するナノサイズ構造を、温度測定のみで評価する画期的な新技術を開発しました。この方法は示差走査熱量測定（DSC）を活用し、融解、結晶化、ガラス転移などの相転移における熱流変化を定量的に解析します。PEGは高い親水性と生体適合性から医薬品や化粧品に広く利用されており、特にドラッグデリバリーシステム（DDS）において免疫回避や溶解性・安定性向上に貢献しています。この新技術は、材料評価を大幅に加速させ、医薬品キャリア設計の効率化、および様々なポリマー関連分野での品質管理向上に寄与すると期待されています。

背景：高分子材料の水中構造評価の重要性

高分子材料は、その分子構造だけでなく、溶媒中や固体中での「高次構造」が物性や機能に大きく影響を与えます。特に、水中で特定のナノサイズ構造を形成する高分子は、医薬品、化粧品、食品など、バイオ関連分野でその機能が重要視されています。しかし、これらのナノ構造を精度よく、かつ簡便に評価する技術はこれまで限られていました。従来の評価手法は、複雑な前処理や高価な装置を必要とし、時間とコストがかかることが課題でした。

東レリサーチセンターによる革新的な評価技術

東レリサーチセンター（TRC）は、この課題を克服するため、ポリエチレングリコール（PEG）が水中で形成するナノサイズの構造を、温度測定のみで評価できる画期的な新技術を開発しました。この新技術は、示差走査熱量測定（DSC: Differential Scanning Calorimetry）という熱分析手法を応用しています。

DSCは、試料を加熱または冷却する際に発生する熱流の変化を測定することで、材料の相転移（例：融解、結晶化、ガラス転移）に伴うエネルギー変化を定量的に捉えることができます。TRCの開発した技術は、このDSCを活用することで、PEGの水中での高次構造の変化を、より簡便かつ高精度に評価することを可能にしました。

ポリエチレングリコール（PEG）の主要な応用

- **化粧品・食品:** 高い親水性と安全性から、保湿剤や増粘剤として広く利用されています。
- **医薬品:** 高い生体適合性と免疫回避特性から、低分子医薬品の溶解性向上、貯蔵安定性向上、およびドラッグデリバリーシステム（DDS）におけるキャリア材料として不可欠です。PEG修飾により、薬剤の体内滞留時間を延ばし、標的部位への送達効率を高めることができます。

産業への影響と今後の展望

TRCの新技術は、高分子材料の評価プロセスに大きな変革をもたらすことが期待されます。

- **材料評価の高速化と効率化:** 複雑な前処理が不要で、短時間で評価が可能のため、研究開発サイクルが大幅に短縮されます。

- **医薬品キャリア設計の最適化:** DDSにおけるPEG修飾キャリアの構造と機能の関係性をより詳細に理解できるようになり、より効果的な薬剤キャリアの設計に貢献します。
- **品質管理の向上:** 製造プロセスにおける材料の品質安定性を迅速に確認できるため、製品の信頼性向上につながります。

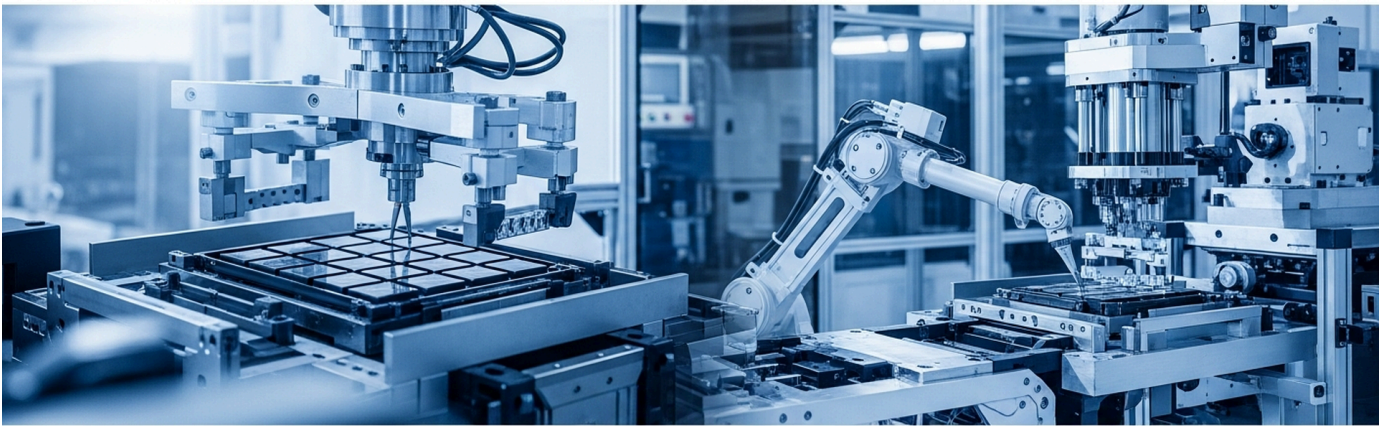
この技術は、高分子・樹脂産業における機能性材料の開発、特にバイオメディカル分野や高機能コーティング材料などにおいて、信頼性の高い分析技術として幅広い応用が期待されます。TRCは、今後もこのような革新的な分析技術を通じて、産業界の進歩に貢献していく方針です。

元記事: <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000038.000172881.html>

収集日: 2026年04月18日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

半導体パッケージング用エポキシモールドコンパウンド市場：需要急増と技術進歩が牽引

公開日 2026年04月13日 openPR.com (Datahorizon Research提供) グローバル



概要

半導体パッケージング用エポキシモールドコンパウンド（EMC）市場は、2024年の約28億ドルから2033年には46億ドルへと、年間複合成長率（CAGR）5.7%で成長すると予測されています。EMCは、半導体チップを環境的・機械的ストレスから保護する重要な熱硬化性樹脂です。この市場拡大は、コンシューマーエレクトロニクス、車載チップ、AIチップ、5Gインフラといった分野での半導体需要の爆発的な増加によって推進されています。フリップチップ、ウェハレベルパッケージング、3D ICスタッキングなどの先進パッケージング技術の採用は、高性能EMC処方への需要をさらに高めています。一方で、エポキシ樹脂やシリカフィラーなどの原材料コストの変動が利益率を圧迫する課題も存在します。

背景：半導体産業の急成長と材料技術の重要性

現代社会は、スマートフォン、自動車、AI、IoT機器など、あらゆる分野で半導体技術に依存しています。半導体産業は目覚ましい成長を遂げており、これに伴い、半導体チップを外部環境から保護し、電氣的に接続するためのパッケージング技術の重要性が増しています。特に、エポキシモールドコンパウンド（EMC）は、半導体パッケージの信頼性と性能を決定する上で不可欠な熱硬化性樹脂として広く採用されています。

EMC市場の成長要因と先進パッケージングの要件

Datahorizon Researchの報告によると、半導体パッケージング用EMCの世界市場は、2024年の約28億ドルから2033年には46億ドルに達し、年間複合成長率（CAGR）5.7%で成長すると予測されています。この堅調な成長は、主に以下の要因によって推進されています。

● 半導体需要の爆発的増加:

- **コンシューマーエレクトロニクス:** スマートフォン、タブレット、ウェアラブルデバイスなどの普及。
- **車載チップ:** 電気自動車（EV）や自動運転技術の進化に伴う半導体搭載量の増加。
- **AIチップ:** 人工知能（AI）の進化を支える高性能プロセッサへの需要。
- **5Gインフラ:** 次世代通信技術のインフラ整備。

● **EMCの役割:** EMCは、半導体チップを湿気、熱、機械的衝撃、化学物質などの外部ストレスから保護し、長期間にわたる信頼性を確保します。

● **先進パッケージング技術の採用:** フリップチップ、ウェハレベルパッケージング、3D ICスタッキングといった高密度・高性能パッケージング技術の普及は、EMCにさらなる高性能化を要求します。これらの技術は、より高い熱伝導性、低応力性、低誘電性、そして複雑な形状への対応能力を持つEMC処方が必要とします。

特にEVは、従来の自動車と比較してはるかに多くの半導体を搭載するため、自動車グレードの信頼性基準を満たす高温耐性EMCの需要を継続的に押し上げています。

課題と今後の展望

EMC市場は堅調な成長を続ける一方で、課題も抱えています。エポキシ樹脂やシリカフィラーといった原材料の価格変動は、メーカーの利益率を圧迫する可能性があります。また、より微細なプロセスルールや高集積化に対応するため、EMCには以下のような性能向上が求められています。

- **熱特性:** 放熱性の向上と熱膨張係数の低減。
- **機械的特性:** 低応力化とクラック耐性の向上。
- **電気的特性:** 低誘電率・低誘電正接による高速信号伝送への対応。

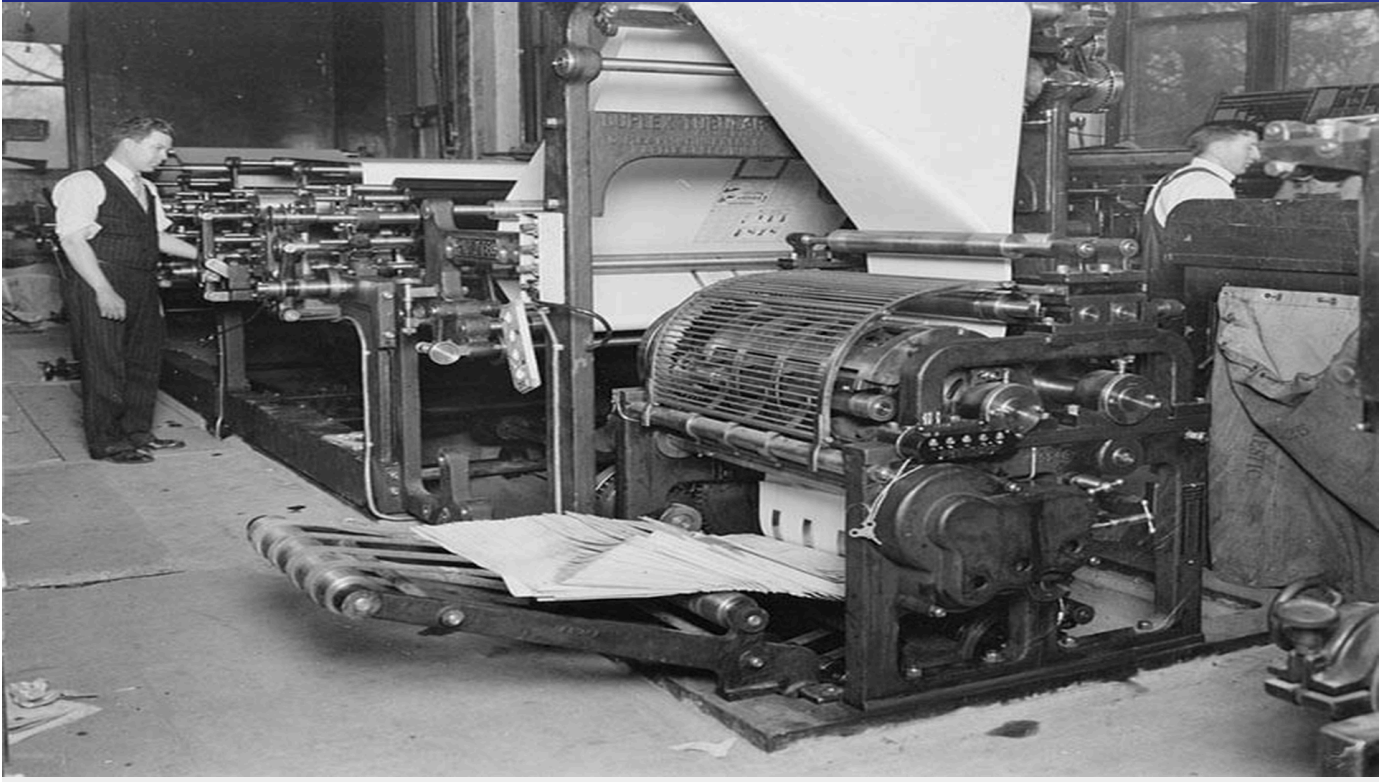
高分子・樹脂メーカーは、これらの要求に応えるため、ナノフィラーの導入や新たなポリマー骨格の開発など、材料科学における継続的なイノベーションが不可欠です。EMC市場は、半導体技術の進化と密接に連携しながら、今後もその重要性を増し、高性能化・多機能化が進んでいくでしょう。

元記事: <https://www.openpr.com/news/4467347/global-epoxy-molding-compound-in-semiconductor-packaging>

収集日: 2026年04月18日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

エボニック、PTFEフリーPEEKスライドベアリング材料を開発：PFAS規制への対応

公開日 2026年04月13日 Plastics News (Weekly Pelletに転載) アメリカ



概要

2026年4月13日のPlastics News週刊ニュースダイジェストは、プラスチック業界のいくつかの主要な進展を報じており、特にエボニックがスライドベアリング向けに新しいPTFE（ポリテトラフルオロエチレン）フリーのPEEK（ポリエーテルエーテルケトン）材料を開発したことが注目されます。この革新は、PFAS規制の台頭によりフッ素ポリマー代替品への需要が高まる中、規制圧力に対応するものです。PTFEフリーPEEKは、PEEKの優れた機械的強度、耐薬品性、熱安定性といった望ましい特性を維持しつつ、従来のフッ素ポリマーに関連する環境懸念を解消する高性能ポリマーソリューションを提供します。

背景：PFAS規制の強化と高性能ポリマーへの需要

近年、PFAS（有機フッ素化合物）が環境中での残留性や人体への影響が懸念される物質として世界的に注目され、その使用に対する規制が強化される動きが加速しています。特に、ポリテトラフルオロエチレン（PTFE）のようなフッ素ポリマーは、その優れた滑り性、耐熱性、耐薬品性から多くの産業分野で利用されてきましたが、PFAS規制の対象となる可能性が高まっています。このような背景から、PTFEに代わる高性能な非フッ素系ポリマー材料の開発が急務となっています。

エボニックによるPTFEフリーPEEK材料の開発

Plastics Newsの2026年4月13日付週刊ニュースダイジェストは、プラスチック業界の最新動向を報じる中で、ドイツの特殊化学品大手であるエボニック（Evonik）が、スライドベアリング用途向けに新しいPTFEフリーのPEEK（ポリエーテルエーテルケトン）材料を開発したことを特に注目すべき発表として取り上げています。

この革新的な材料開発は、以下の点で重要です。

- **PFAS規制への対応:** PTFEがPFASの一種であるため、その代替材料への需要が高まっています。エボニックのPTFEフリーPEEKは、企業が環境規制を遵守しながら製品の性能を維持または向上させるための直接的なソリューションを提供します。
- **PEEKの特性維持:** PEEKは、その優れた機械的強度、高い耐熱性（高温環境下での安定性）、および広範な化学薬品への耐性で知られるスーパーエンジニアリングプラスチックです。新開発の材料は、これらのPEEK本来の望ましい特性を維持しつつ、PTFEの機能（特に滑り性）を代替することを目指しています。
- **応用分野:** スライドベアリングは、自動車、産業機械、航空宇宙など、摩擦や摩耗が問題となる多様なアプリケーションで不可欠な部品です。PTFEフリーPEEKは、これらの分野でより環境に配慮した高性能な選択肢を提供します。

産業への影響と今後の展望

エボニックによるPTFEフリーPEEKの開発は、高分子・樹脂産業における環境規制への対応と技術革新の重要性を示しています。この新しい材料は、製造業者にとって、環境への配慮と製品性能の両立を可能にする画期的なソリューションとなるでしょう。

今後の展望として、以下のような影響が考えられます。

- **市場ニーズへの対応:** PFAS規制がさらに厳格化する中で、他のフッ素ポリマー代替材料の開発も加速するでしょう。
- **新たな材料設計の推進:** PTFEの機能（低摩擦性など）を非フッ素系ポリマーで実現するためには、材料の分子設計、複合化技術、添加剤の最適化など、高分子科学のさらなる進展が求められます。
- **産業横断的な影響:** スライドベアリングだけでなく、PTFEが使用されてきた他の多くのアプリケーション（ガスケット、シール、コーティングなど）においても、非フッ素系高性能ポリマーへの切り替えが進む可能性があります。

この開発は、持続可能性と高性能を両立させるための高分子技術の進化を象徴するものであり、今後の材料産業の方向性を示唆する重要な動きと言えます。

元記事: <https://weeklypellet.com/2026/04/13/weekly-news-digest-april-13-2026/>

収集日: 2026年04月18日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)